

---

# 地域連携 学生フォーラム in 大阪 2014

地域と共に学ぶ 連携の道標<sup>みちしるべ</sup>

## 報告集

---

主催：特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

## 目 次

巻頭言	1
次 第	2
各大学の発表	
発表① 行政地域と連携した柏原市小学校における森林体験学習の支援 大阪教育大学 教育学部 【担当教員：岡崎 純子 准教授】	3
発表② モダン科学館 大阪教育大学 教育学部 【担当教員：鈴木 康文 教授】	9
発表③ しょうがいを持つ子どもと家族の支援のための実践活動 大阪河崎リハビリテーション大学 理学療法学専攻 【担当教員：久利 彩子 講師】	15
発表④ 認知症サポーター養成講座における本学学生と地域住民との受講意識の比較 大阪河崎リハビリテーション大学 作業療法学専攻 【担当教員：石川 健二 講師】	20
発表⑤ 健康推進を目的とした梅の摂取習慣が骨密度および運動機能におよぼす 効果についての調査研究 大阪河崎リハビリテーション大学 理学療法学専攻 【担当教員：中村 美砂 教授】	25
発表⑥ 円山川の河川環境からみる里山の再生 ～海と街と山を繋ぐ取り組みを目指して～ 大阪商業大学 経済学部 【担当教員：原田 禎夫 准教授】	34
発表⑦ 福島県の青果物の売場企画 大阪成蹊大学 マネジメント学部 マネジメント学科 食ビジネスコース 【担当教員：田中 浩子 教授】	42
発表⑧ 地域連携デザイン学習 「池田市観光スポット・ガイドブック制作」 大阪成蹊大学 芸術学部 情報デザイン学科 ビジュアルデザインコース 【担当教員：門脇 英純 教授】	51
スナップ写真集	60
広報用チラシ（参考）	61
参加者アンケート集計結果	62

本部会は、これまで関連自治体も交えた会員大学相互の情報交換会の開催や、大阪市からの受託事業を主に活動してきました。今般、これまでの活動を発展させ、会員大学の学生がゼミ単位で地域と関わりながら取り組んでいる研究活動やフィールドワーク、ボランティア活動等の内容について発表し、相互交流を行う「地域連携 学生フォーラム in 大阪」を今年度初めて開催しました。

このフォーラムは、学生による発表交流会を通じて、学生の地域連携に取り組む意識の高揚や自己点検を促進するとともに、地域との連携を行ううえでの配慮ポイントやノウハウを会員大学や自治体関係者等で共有し、会員大学の地域連携活動の活発化を目指す機会とすることを目的としたものです。

開催にあたり、会員44大学に公募し、地域連携部会 推進委員会による審査の結果、エントリーのあった4大学8事業全てを発表していただくこととしました。当日はゼミ単位の研究活動やフィールドワーク、ボランティア活動等について学生から発表があり、参加者による意見交換と委員による講評が行われました。大学の特性や地域固有の事情を踏まえたユニークな「地域連携」が実現されていることを互いに理解し、それをさらに他大学や他地域でも応用、工夫することにより、大学を核とした地域連携の展開へ広がる契機となりました。

本事業は、当日のアンケート結果も踏まえ、今後も継続的に開催することとしています。そして、会員大学の地域連携活動を集約したデータベースとして構築し、広く共有、活用するとともに、情報発信に繋がりたいと考えています。

この報告集は、フォーラムでの8事業の発表を取りまとめたものです。会員大学や関係各位の地域連携活動にお役立て願いたいと存じます。なお、発表交流会開催に際し、ご協力いただいた関係各位におかれましては、心より御礼申し上げます。

平成26（2014）年12月

～「地域連携 学生フォーラム in 大阪」 開催までの流れ～

	大学コンソーシアム大阪	会員大学
6月	会員大学へ公募 ※8月22日まで	エントリーシートをコンソ大阪へ提出
7月		結果通知の受理、発表に向けての準備
8月	発表内容の確認・結果通知	
9月	開催案内チラシの配信・配布、発表会参加申込受付	必要書類（当日配布用レジュメ等）を作成のうえ、コンソ大阪へ提出
10月	会場・スケジュールの最終調整	
	18日（土）発表交流会	
11月～12月	報告書まとめ、配布	

# 地域連携 学生フォーラム in 大阪 2014 次 第

◆日 時：2014（平成26）年10月18日（土）13：00－18：00

◆場 所：大阪科学技術センター 401号室

時 間	内 容	発表大学
13:00－13:10	開会挨拶、趣旨説明、推進委員紹介	
13:10－13:30	行政地域と連携した柏原市小学校における森林体験学習の支援	大阪教育大学 教育学部 【担当教員：岡崎 純子 准教授】
13:30－13:50	モダン科学館	大阪教育大学 教育学部 【担当教員：鈴木 康文 教授】
13:50－14:10	しょうがいを持つ子どもと家族の支援のための実践活動	大阪河崎リハビリテーション大学 理学療法学専攻 【担当教員：久利 彩子 講師】
14:10－14:30	認知症サポーター養成講座における本学学生と地域住民との受講意識の比較	大阪河崎リハビリテーション大学 作業療法学専攻 【担当教員：石川 健二 講師】
14:30－14:40	休憩	
14:40－15:00	健康推進を目的とした梅の摂取習慣が骨密度および運動機能におよぼす効果についての調査研究	大阪河崎リハビリテーション大学 理学療法学専攻 【担当教員：中村 美砂 教授】
15:00－15:20	円山川の河川環境からみる里山の再生～海と街と山を繋ぐ取り組みを目指して～	大阪商業大学 経済学部 【担当教員：原田 禎夫 准教授】
15:20－15:40	福島県の青果物の売場企画	大阪成蹊大学 マネジメント学部 マネジメント学科 食ビジネスコース 【担当教員：田中 浩子 教授】
15:40－16:00	地域連携デザイン学習 「池田市観光スポット・ガイドブック制作」	大阪成蹊大学 芸術学部 情報デザイン学科 ビジュアルデザインコース 【担当教員：門脇 英純 教授】
16:00－16:10	休憩	
16:10－16:30	推進委員からの講評、閉会挨拶	
16:30－17:40	交流会・茶話会	

【大学コンソーシアム大阪 地域連携部会 推進委員】

委員長 久 隆浩（近畿大学 総合社会学部 教授）  
副委員長 中井 孝章（大阪市立大学 大学院 生活科学研究科 教授）  
委員 嘉名 光市（大阪市立大学 大学院 工学研究科 准教授）  
委員 鎌苅 宏司（大阪学院大学 経済学部 教授）

【大学コンソーシアム大阪 事務局】

地域連携コーディネーター 中川 邦彦

主催：特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

## 各大学の発表

発表①

研究テーマ名	行政地域と連携した柏原市小学校における森林体験学習の支援
大 学 名	大阪教育大学
担 当 教 員	教育学部 准教授 岡崎 純子
連 携 先	大阪府, 柏原市, 柏原市教育委員会, 柏原市の実施小学校
活動の概要	<p>柏原市小学校での森林体験学習は、大阪教育大学と行政（大阪府中部農と緑の総合事務所, 柏原市）、柏原市教育委員会、参加小学校の連携により2002年から実施している活動である。大阪教育大学では学内協力教員による「みどりの里山いきいきプロジェクトチーム」（代表岡崎純子）と大学の地域連携係が活動の遂行に当たっている。この活動は、児童に対し（1）自然環境の理解と豊かな感性を涵養し、（2）地域の自然特性や暮らしへの気づきを促し、（3）他者と協力し問題解決を行っていく能力を伸ばし育てるという3つの実践目標のもと、近隣の里山をフィールドとして、自然観察や森林の手入れなどのアクティビティに大阪教育大学の学生がボランティアリーダーとして参加し実施している。この活動は教員養成系の学生に対し単なるボランティアとして参加するのではなく現場に対応した行動力・実践力を養う機会を設定し、学生が行政教育委員会と密な連携をとり、実施リーダーとして活動を遂行していく場を設けて教師としてのスキルを磨く場としても活用している。本年度は申請学生寺田怜史が学生リーダー代表として活動している。</p>
これまでの活動実績	<p>この活動は2002年から実施されてきた。2003年には、大阪教育大学に「みどりの里山いきいきプロジェクトチーム」が結成され、大学教員、大学地域連携係、柏原市、大阪府、柏原市教育委員会、地域ボランティアが協力関係を結んで、年間を通じた森林体験学習の実施とサポーターとしての学生ボランティアの募集、育成といった組織的な協議と実施を図ってきた。実施校との打ち合わせ会議には学生代表も参加しその内容等についての議論にも加わっている。2006年には文部科学省現代的GPプログラム「地域連携学校教育のできる教員養成」の1つの取り組みとして実施が促進された。毎年2～4小学校がこの取り組みに参加し、各小学校で2回、年間総数4～8回の実施が続けられてきた。また大阪教育大学のボランティア学生は各年のべ40～50名程が参加している。2013年には参加小学校2校、参加児童190名、参加大学生のべ48名で実施した。</p>

	時 期	内 容
年間活動計画	4月～5月	前期実施打ち合わせ会議 学生代表、大阪教育大学教員（指導教員）、大学地域連携係、大阪府職員（中部農と緑の総合事務所）、柏原市職員、柏原市教育委員会指導課職員、実施小学校担当教員が一堂に会して前期の実施内容および実施日程の協議
	6月～7月	参加小学校での森林体験学習の実施
	10月	後期実施打ち合わせ会議 学生代表、大阪教育大学教員（指導教員）、大学地域連携係、大阪府職員（中部農と緑の総合事務所）、柏原市職員、柏原市教育委員会指導課職員、実施小学校担当教員が一堂に会して前期の実施内容および実施日程の協議
	11月～1月	参加小学校での森林体験学習の実施

#### 参加学生

研究室学生（加藤潤、小原昌之、寺田怜史（今回の発表者）、松本美穂、南慎二郎、雪山大樹）およびボランティア登録をした大阪教育大学学生・院生

#### 活動の成果 主要なもの

1. みどりの里山いきいきプロジェクトチーム（2014）教育委員会・行政と連携した柏原市における森林体験学習の支援平成25年度報告書
2. 岡崎純子（2009）森林体験学習「大阪教育大学現代GP 地域連携学校教育のできる教員養成報告書」大阪教育大学. p.9-18
3. 岡崎純子・荻田耕司・野田俊弘・三嶋宏・松田幸子・中辻清康・関隆晴（2008）大学と地域の連携活動による森林環境教育での教員養成系大学学生の教師としての成長の場の構築. 大阪教育大学紀要Ⅴ 57：85-91
4. 岡崎純子他8名（共同執筆）（2008）『冒険の森・こども森林活動プログラム集—企業・NPOが担う森の学校の勧め』大阪府. 90pp.
5. 坂本知恵・岡崎純子（2007）高尾山（大阪府柏原市）の植物を活用した教材開発—地域と連携した森林体験学習の場の自然を活用した教材化の試み.」大阪教育大学紀 Ⅴ 56：17-26
6. 岡崎純子・坂本知恵（2006）高尾山（大阪府柏原市）の植物相. 大阪教育大学紀要Ⅲ 55：33-43
7. 岡崎純子・釜谷聡・上野山雄也・森口秀樹・関隆晴府（2005）市と連携した総合的な学習の時間を活用した森林体験学習—大学生ボランティアスタッフの参加による学習プログラムの実践—. 大阪教育大学紀要Ⅴ 54：203-211.
8. 関隆晴・釜谷聡・森口秀樹・生田享介・石川聡子・岡崎純子（2005）小学校の森林体験学習支援を通じた大阪教育大の社会貢献について. 大阪教育大学紀要Ⅴ 54：195-202

#### 地域からの評価

森林体験学習への参加は希望校に対し実施している。毎年2～4校の小学校より希望があり現在に至っている。年間行事の1つとしてほぼ定着している学校もある。

行政地域と連携した  
柏原市小学校における森林体験学習の支援



大阪教育大学理科教育講座  
植物進化学研究室(岡崎研究室)  
4回生 寺田怜史(理科教育専攻 中学校コース)

柏原市の森林体験学習とは

児童に対する目標

- ①自然環境の理解と豊かな感性
- ②地域の自然特性や暮らしへの気づき
- ③他者と協力し、問題を解決する能力

①森林体験学習とは

- 1)目的
- 2)実施場所
- 3)実施体制
- 4)今までの森林体験では

柏原市の森林体験学習とは

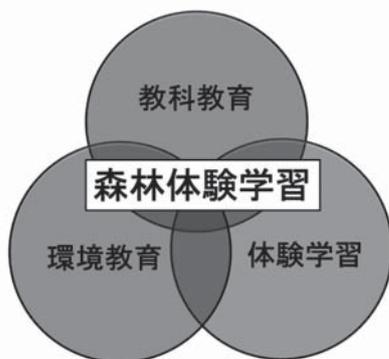
ボランティア学生に対する目標

- ①子どもの集団活動と体験学習を支援する力
- ②環境教育に対する理解の深化
- ③行政、地域、学校等の人材との連携活動の在り方を学ぶ



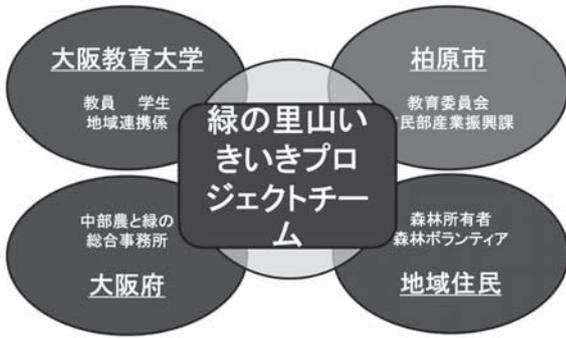
教員としてのスキルの獲得

柏原市の森林体験学習とは



柏原市タウンガイド <http://www.kawachi.zaq.ne.jp/hiro0616/link5g-map.html> より

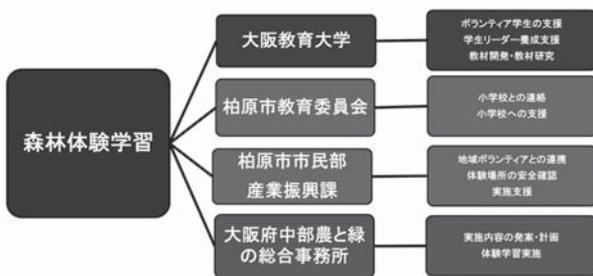
### 森林体験学習参画組織



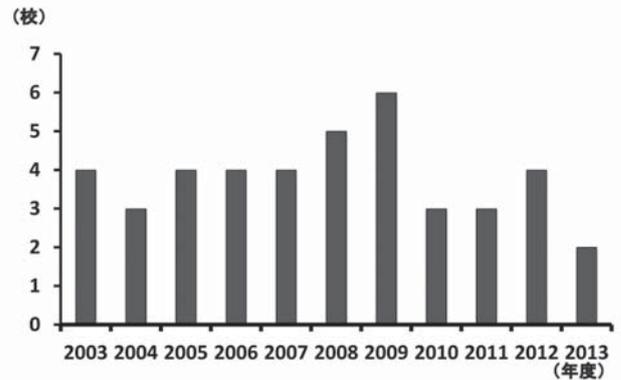
### 森林体験の打ち合わせ会議



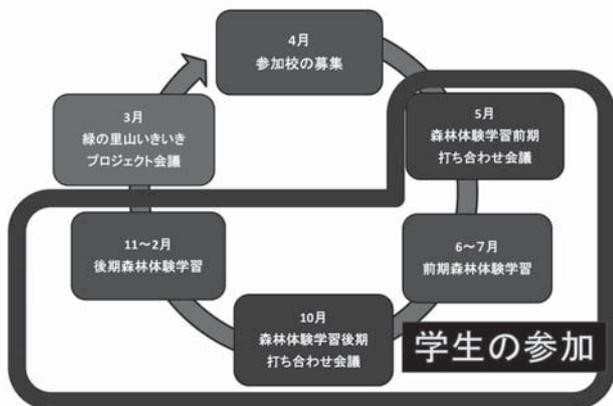
### 森林体験学習の役割



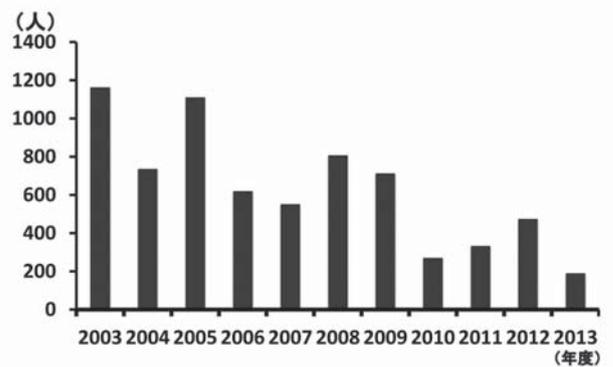
### 柏原市立小学校 参加校数の変移



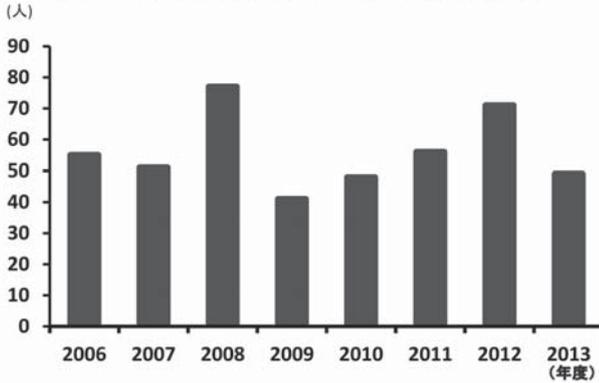
### 森林体験学習年間スケジュール



### 柏原市立小学校 参加人数の変移



森林体験ボランティア学生数の変移



## ②実施例の紹介

- 1) 体験内容
- 2) 当日の流れ
- 3) 学生の登録システム
- 4) 参加学生のために
- 5) 学生主体の実施回について

当日の朝の打ち合わせ時に1日の実施要領を書いたプリントが配布される

## 森林体験学習の活動内容

- |   |   |
|---|---|
| <p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校庭と森林の土壌調査</li> <li>・ 森のビンゴゲーム</li> <li>・ 森のはたらきを知る</li> <li>・ 葉っぱの観察</li> <li>・ 植栽</li> </ul> | <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 間伐体験</li> <li>・ ドングリの観察</li> <li>・ 森のビンゴゲーム</li> <li>・ リース作り</li> <li>・ 森の観察</li> <li>・ 落ち葉のお風呂</li> </ul> <p>etc...</p> |
|---|---|
- etc...

本日の流れについて  
森林体験学習関係者  
全員で確認

児童・校庭集合  
注意事項と確認

森林体験学習の  
アクティビティー  
(土壌観察)



高尾山へ

登山途中  
アクティビティー  
(森のビンゴゲーム)

自分たちの班で見つけた  
本日のとっておきの発表

### 森林体験学習における学生の役割

- ・小学校の各班のリーダーとなり、児童の安全面の確認。
- ・児童の手の届かないところの葉や花の採取。
- ・児童に植物や森林についての知識を伝える。
- ・アクティビティーの手助け、助言。
- ・児童の発表の際の手助け。

etc...

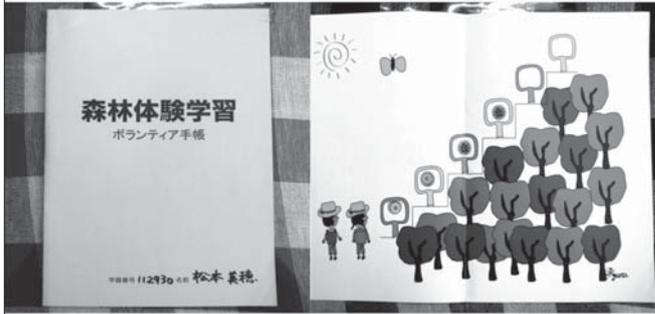


下山

終わりの会

スタッフミーティング

### 森林体験学習 ボランティア手帳



森林体験学習  
ボランティア手帳

© 2013 松本 英穂

### 森林体験学習 学生参加方法

大阪教育大学  
ボランティアシステム

受付番号とパスワードを入力してログインしてください

受付番号: G11111111

パスワード: .....

ログイン

ID・パスワードを忘れた方はこちらまで

ログイン画面

Copyright © 2013 Osaka Education University. All Rights Reserved.



学生自身がリーダーとして  
森林体験学習の進行役を務める

発表②

研究テーマ名	モダン科学館
大 学 名	大阪教育大学
担当教員	教育学部 教授 鈴木 康文
連 携 先	依頼を受けた小・中・高等学校（大阪府下，奈良県下）
活動の概要	<p>本活動では，身近にある科学現象の理解を促進し，児童・生徒の理科への興味付け，学習の動機付けのために，手作り教材を用いた出張科学館や出張科学実験教室を実施している。毎年10回程度のイベントを開催し，今年で10年目を迎える。</p> <p>手作り科学館では，10～15ほどの手作り教材を教室に配置し，参加者は自由に教材に触れることができる。それぞれの教材についてブース形式または巡回の形式で指導者が付き，参加者の疑問の解消や解説を行っている。</p> <p>科学実験教室では，3～5のテーマ別に演示実験ブースや実験・体験ブースを開き，実験活動を通して身近にある科学的な要素に気づき，理解することができるような活動を行っている。学校の授業ではなかなか扱うことのできない身近な題材を扱うことで，参加者が科学（理科）を日常のものと感じることができるよう努めている。</p> <p>活動の結果として，実施したほとんどの団体から高い評価を得ている。最近の大阪市立東高校での科学館において実施したアンケートによると，「理解しやすい」が4.56（5点満点），「楽しい」が4.58（5点満点）と，非常に高い評価が得られた。また，1度実施した団体からの再依頼も多く，そこからも高い評価を得ていることが窺える。</p> <p>今後の展望として，内容のいっそうの充実と知名度の向上を図り，既設科学館よりも手軽かつ親近感のある科学館を目指すことで，科学に興味を持つきっかけとなるような活動を展開していきたい。</p>
これまでの活動実績	<p style="text-align: center;">（特に13年度以降）</p> <p>13.5.18-19 大阪教育大学五月祭 科学館を開催（294人）</p> <p>13.6.21 大阪市立東高校 科学館を開催（150人）</p> <p>13.7.27 大阪教育大学オープンキャンパス 科学館を開催（215人）</p> <p>13.8.3 富田林サイエンスキャンプ 科学館を開催（30人）</p> <p>13.9.15 高井田元気子ども会 科学実験教室を開催（19人）</p> <p>13.9.28 柏原市民総合フェスティバル 科学館を出展（125人）</p> <p>13.11.2-3 大阪教育大学神霜祭 科学館を開催（351人）</p> <p>13.11.9 大阪府立富田林高校 科学館を開催（70人）</p> <p>13.11.10 八尾市立桂小学校デイキャンプ 科学館を開催（60人）</p> <p>13.11.18 奈良学園高等学校 大阪教育大学で科学館を開催（66人）</p> <p>13.11.27 福井市立六条小学校 科学館を開催（30人）</p> <p>13.12.14 東大阪市立荒川小学校 科学実験教室を開催（60人）</p> <p>14.2.22 松原市立恵我小学校 科学実験教室を開催（40人）</p> <p>14.5.17-18 大阪教育大学五月祭 科学館を開催（202人）</p> <p>14.6.27 大阪市立東高校 科学館を開催（100人）</p> <p>14.7.27 大阪教育大学オープンキャンパス 科学館を開催（252人）</p> <p>14.8.2 富田林サイエンスキャンプ 科学館を開催（13人）</p>

	時 期	内 容
年間活動計画	5/17, 18	大阪教育大学 五月祭 科学館を開催
	6/27	大阪市立東高校 科学館を開催
	7/27	大阪教育大学 オープンキャンパス 科学館を開催
	8/2	富田林サイエンスキャンプ 科学館を実施
	9月下旬 (予定)	豊中市立南桜塚小学校 科学実験教室を実施
	10月下旬 (予定)	松原市立恵我小学校 科学実験教室を実施
	11/2, 3 (予定)	大阪教育大学 神霜祭 科学館を実施
	11/11 (予定)	奈良学園高校 科学館を実施（大阪教育大学にて）  ※その他，実施依頼を受け実施予定。  ※新規教材開発など，科学館の発展に関する活動は通年行っている。

# モダン科学館

大阪教育大学 教育学部 理科教育専攻  
モダン-物性-研究室

## 3つの特徴



## 団体紹介

### モダン科学館とは？

・学生が主体となり、地域の小・中・高等学校の児童生徒を対象として手作り理科教材での科学館や出張授業を実施している。

・今年で10年目を迎え、年々教材も充実しており、科学館の実施依頼も増加している。

## 昨年度の活動実績

およそ1500人！

学外活動	来場者数
大阪市立東高校	約150名
大阪府立富田林高校	約30名
高井田元気子ども会 科学実験教室	19名
柏原市民総合フェスティバル	125名
大阪府立富田林高校	約70名
八尾市立桂小学校デイキャンプ	60名
奈良学園高等学校	66名
福井市立六条小学校施	約30名
東大阪市立荒川小学校	約60名
松原市立恵我小学校	約40名
学内活動	来場者数
大阪教育大学五月祭	294名
大阪教育大学オープンキャンパス	215名
大阪教育大学神霜祭	351名

## 科学館活動の目的

自然科学に対する  
子どもの興味・関心の増進

大阪教育大学を  
知ってもらうための機会

学生の科学的知識  
理科指導力の向上

この3点を柱とし、教員養成系大学として  
地域の科学教育に貢献することを目的としている。

## 学内での活動

◎オープンキャンパス・大学祭



学外での活動

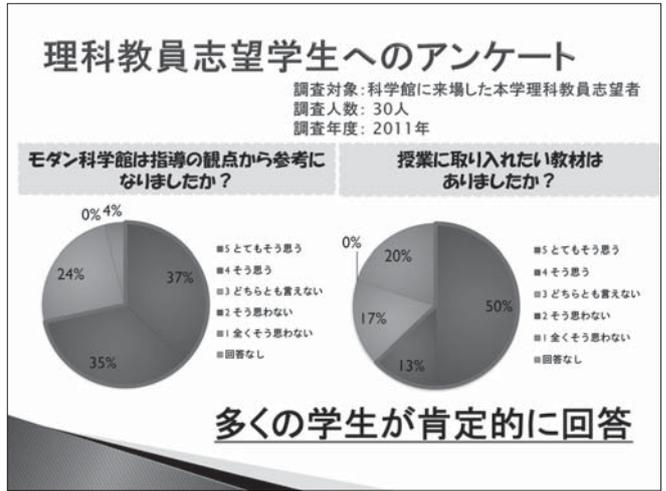
◎小・中・高校への出張科学館





・また、科学館実施依頼のリポート率の高さ、新規依頼の多さからも評価の高さがうかがえる。

昨年度の実施状況	今年度依頼
大阪市立東高校	○
大阪府立富田林高校	○
高井田元気子ども会 科学実験教室	○
柏原市民総合フェスティバル	○
大阪府立富田林高校	○
八尾市立桂小学校デイキャンプ	未定
奈良学園高等学校	○
福井市立六条小学校	未定
東大阪市立荒川小学校	○
松原市立恵我小学校	○
新規依頼	
南桜坂子ども会	
本町小学校(三島郡)	
枚方市立平野小学校	



## 科学館活動を通して

自然科学に対する  
子どもの興味・関心の増進

大阪教育大学を  
知ってもらうための機会

学生の科学的知識  
理科指導力の向上



目的を概ね達成していると考えられる。

## これからの展望

### ・よりよい教材の開発・改良

⇒ 解説パネルの内容の精査  
視覚的・体験的要素を増やす

### ・学生スタッフの質の向上

⇒ 教材マニュアルの作製  
科学的知識の向上

### ・科学館活動の周知

⇒ ホームページの充実

ご清聴ありがとうございました

発表③

研究テーマ名	しょうがいを持つ子どもと家族の支援のための実践活動
大学名	大阪河崎リハビリテーション大学
担当教員	理学療法学専攻 講師 久利 彩子
連携先	親と子のステップアップの会 ぐりっとら～glittra～
活動の概要	<p>子どもの精神的・心理的成長には、その子の家族だけでなく、子どもが出会う友人との関わりや、地域での生活など、広い社会の中でのさまざまな経験が必要である。このことは、障がいの有無に関わらない。障がいのある子はしかしながら、障がいのない子と同じような機会に恵まれているというわけではない。</p> <p>「親と子のステップアップの会 ぐりっとら～glittra～」という会（以下、「会」）では、社会へ出る日にむけた練習を兼ね、そのような親子に、多くの人と関わる環境を提供する活動（以下、「会の活動」）を実施している。子どもの目標は、あいさつができる、ルールを守れる、コミュニケーションがとれる、である。「会の活動」の実施においては、参加する親子が安全で安心して参加できるように、細やかな配慮が必要である。</p> <p>本ゼミナールの活動（以下、「ゼミの活動」）は、このような「会の活動」をサポートすることにより、机上の学びだけでは得られないリアルな社会経験をする。その具体的内容は、「会」の目的を理解した上で、子どもとの関わり、遊びの提供、「会の活動」の運営の補助を行うことであった。</p>
これまでの活動実績	<p>「ゼミの活動」はこれまで、計3回実施した。以下詳細を示す。</p> <p>第1回は、平成25年6月2日、和歌山市青少年自然の家での野外活動である。子どもたちが広場やアスレチックで遊ぶときに一緒に遊びながら、子どもが楽しく安全に遊べるよう、支援した。親御さんから、「心安らぐひと時を過ごした。」と感想があった。</p> <p>第2回は、平成25年8月22日、和歌山市ビッグホエールでの夏祭りである。ハンドマッサージを参加者に提供し、障がいのある子どもが、第三者から体に触れられる体験を通じて、人との関わりを学ぶ支援を行った。体をさわられるのが苦手な子どもが、この時は、いやがらなかった。</p> <p>第3回は、平成26年6月8日、和歌山ビッグ愛でのファミリーコンサートである。子どもの家族が安心して気兼ねなくコンサートに参加することができるよう家族を支援した。「リラックスの場となってよかった。」と親御さんから感想があった。</p> <p>「会」からこれらの活動を通して、ボランティアの力を借りることで活動の内容が広がりより豊かな経験ができたことや、学生達と楽しい時間を過ごしたことで子どもたちも記憶に残るイベントになったと思う、と感想があった。</p> <p>ゼミの学生は、「ゼミの活動」を通じて、子どもの精神的・心理的成長を支援する具体的方法を実体験し、しょうがいをもつ子どもやその家族への支援の方法を学ぶことができた。</p>

	時 期	内 容
年間活動計画		親と子のステップアップの会 ぐりっとら～glittra～（以下「会」）との今年度の計画は終了した。ここには、昨年度から今年度に計画・実施した内容を記載した。
	平成25年 4月頃	「会」との情報共有を行った。その後、「ゼミの活動」の活動内容の決定を行った。
	平成25年 6月2日	活動実施 和歌山市青少年自然の家での野外活動における支援を行った。具体的には、子どもが広場やアスレチックで遊ぶときに、一緒に行動して、子どもが楽しく安全に遊べるよう、支援を行った。
	平成25年 6月頃	「会」との情報共有を行った。その後、「ゼミの活動」の活動内容の決定を行った。
	平成25年 8月22日	活動実施 和歌山市ビッグホエールでの夏祭りで、障がいのある子どもに参加して体験していただくコーナーを企画、実施した。具体的には、ハンドマッサージを提供した。
	平成26年 4月頃	「会」との情報共有を行った。その後、「ゼミの活動」の活動内容の決定を行った。
	平成26年 6月8日	活動実施 和歌山ビッグ愛でのファミリーコンサートにおいて、家族が安心して気兼ねなくコンサートに参加することができるよう、「会の活動」の運営の補助および、参加した子どもの見守りを行い、家族の支援を実施した。

以上

# しょうがいを持つ子どもと家族の支援のための実践活動

大阪河崎リハビリテーション大学  
 松尾 雄太 (学生)  
 木曾林 将 (学生)  
 藤井 健正 (学生)  
 原 和人 (学生)  
 西出 純子 (職員)  
 久利 彩子 (指導教員)  
 地域連携 学生フォーラム in 大阪 2014  
 2014 (平成26) 年10月18日 (土)  
 大阪科学技術センター 401号室

The Consortium of Universities of Osaka 大阪河崎リハビリテーション大学

## 活動の内容

「親と子のステップアップの会 ぐりつとら～glittra～」様の活動目的を理解した上で

子どもとの関わり、遊びの提供、「会の活動」の運営の補助を行うこと。

### 事前打ち合わせ

「親と子のステップアップの会 ぐりつとら～glittra～」様と、情報を共有しながら「ゼミの活動」の活動内容を決定。

### 活動実施

The Consortium of Universities of Osaka 大阪河崎リハビリテーション大学

## ゼミの概要

### 大阪河崎リハビリテーション大学 ボランティア部

大学に依頼のきた各イベントに対してボランティア活動を行う。  
 これまで行ってきたボランティア活動で、つながりのある人からの直接連絡。

- 構成
  - ・ 部長 1名
  - ・ 副部長 1名
  - ・ 会計 1名
  - ・ 部員
    - 1年: 7名
    - 2年: 8名 (部長、副部長、会計含む)
    - 3年: 8名
    - 4年: 5名

The Consortium of Universities of Osaka 大阪河崎リハビリテーション大学

## 活動の具体的内容

第1回 平成25年6月2日  
 「子どもの安全を確保しながらいっしょに遊ぶ」

第2回 平成25年8月22日  
 「子どもが参加して体験できるコーナーを実施」

第3回 平成26年6月8日  
 「子どもの保護者が精神的にリラックスして社会参加することを支援」

The Consortium of Universities of Osaka 大阪河崎リハビリテーション大学

## 活動の概要

子どもの精神的・心理的成長は、家族・地域での生活・広い社会の中でのさまざまな経験が必要である。しかしながら、障がいのある子は、障がいのない子どもと同じような機会に恵まれているとはいえない。

本活動は、障がいをもつ子どもと多くの人と関わることを支援する活動である。

- ・ 本活動は、団体名「親と子のステップアップの会 ぐりつとら～glittra～」様の活動を支援。
- ・ 活動地域: 和歌山県和歌山市
- ・ 「親と子のステップアップの会 ぐりつとら～glittra～」様の活動のねらい (障がいをもつ子の)
  - ① あいさつができる
  - ② ルールを守れる
  - ③ コミュニケーションがとれる
- ・ 参加する親子が安全で安心して参加できるように、細やかな配慮が必要。



<http://www4.hp-ez.com/hp/glittra2010/>

The Consortium of Universities of Osaka 大阪河崎リハビリテーション大学

## 活動紹介①

第1回 平成25年6月2日  
 「子どもの安全を確保しながらいっしょに遊ぶ」 (活動参加は6名)

- ・ 和歌山県青少年自然の家 (障がいのある子3名+α、保護者10名)
- ・ 野外活動 子どもたちと広場やアスレチックで一緒に遊ぶ
- ・ 一緒に行動して、子どもが楽しく安全に遊べるように
- ・ 障がいをもつ子どもの親から「心安らぐひと時を過ごした。」



The Consortium of Universities of Osaka 大阪河崎リハビリテーション大学

## 活動紹介②

第2回 平成25年8月22日  
「子どもが参加して体験できるコーナーを実施」

- 和歌山市ビッグホール 夏祭り（子ども約30名、内障がいのある子は20名、おとな約30名）
- 「ハンドマッサージ」コーナーを企画、障がいのある子どもにもハンドマッサージを提供
- 第三者から体に触れられる体験を通じて、人との関わりを学ぶ
- 障がいをもつ子どもの親から「体をさわられるのが苦手な子どもが、この時は、いやがらなかった。」



## 学生の学びと反省

活動を通じて

- 子どもの精神的・心理的成長の支援の体験
- 子どもの精神的・心理的成長の成長の体験
- 障がいをもつ子どもやその家族への支援の具体的方法を体験
- 障がいをもつ子どもたちとのふれ合い方を学ぶ事が出来た。少し触っただけでもとても驚く子どもがいるので、驚かせない触り方や話の仕方を学んだ。
- 学内では学ぶ事の出来ない、実際に人と人とが関わりあう機会を得る事が出来た。（障がいの有る無しに関わらず、人として当然であるが。）
- 活動実践のための事前の準備に時間が取れないことが合った。当日ぶっつけ本番で手間取ったため、多少、利用者の方々に迷惑をかけることもあった。

## 活動紹介③

第3回 平成26年6月8日  
「子どもの保護者が精神的にリラックスして社会参加することを支援」

- 和歌山ビッグ愛 ファミリーコンサート（子ども約40名、障がいのある子ども約30名、おとな約60名）
- 子どもの家族が安心して気兼ねなくコンサートに参加することができるよう、子どもの見守りを通じた家族の支援 運営の補助
- 障がいをもつ子どもの親から「リラックスの場となつてよかった。」



## 活動が有意義なものとなるために配慮したこと

地域のニーズの把握と活動目的の理解による活動内容の決定

- 地域のニーズを把握する。
- 情報を共有しながら活動内容を決定する。
- 活動目的をしっかりと理解する。
- 活動内容は、学生が主体的に決定。
- 活動終了時に、振り返りの場をもって、次回の活動に役立つようにする。



## 活動に対する地域からの評価

「親子のステップアップの会 ぐりっら〜glittra〜」様から

- ボランティアの力を借りることで活動の内容が広がりより豊かな経験ができた。
- 学生達と楽しい時間を過ごしたことで、子どもたちも記憶に残るイベントになった。



## 私たちが考えるボランティア活動継続のための5本柱



## 課題

・活動のための消耗品費が高額なため、思うような十分な活動ができない。  
⇒部費の予算案編成時に、もっと積極的に活動内容をアピールして、予算を獲得していくことが、課題である。[例. アロママッサージを行うときに使う、ベースオイルやエッセンシャルオイルを買うお金が少なくなっており活動が制限されてしまった。]

・ボランティア活動を行う部員が少なくなっており、外部からのボランティアの募集に対応出来ない。  
⇒ボランティア部だけでなく、大学の学生全員に活動参加を呼びかけるように工夫している。学生がよく集まる場所に、掲示板を作成した。

・ボランティアの活動実施日が平日という日程でボランティア依頼があると、大学の授業のためにボランティア活動に参加することが出来ない。



学生食堂内にボランティア募集の  
掲示板を設置



発表④

研究テーマ名	認知症サポーター養成講座における本学学生と地域住民との受講意識の比較
大 学 名	大阪河崎リハビリテーション大学
担当教員	作業療法学専攻 講師 石川 健二
連 携 先	貝塚市山手地区地域包括支援センター
活動の概要	<p>近年、地域包括ケアシステムの実現に向けて、厚生労働省は一般の住民を対象とした認知症に対する理解を広げて行こうとする「認知症サポーター100万人キャラバン」の取り組みを行っており、2009年には認知症サポーターが5年間で目標の100万人に到達した。</p> <p>地域包括ケアシステムは2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもと、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい生活を人生の最後まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制の構築を推進している。内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」で全国60歳以上の男女を対象とした調査結果では、NPO活動に対する関心は高いにもかかわらず、参加するきっかけや情報の不足で実際に活動している人は少ないという結果であった。</p> <p>今回の成果として、認知症サポーターがどのような活動を推進していくべきかを地域住民と本学学生において比較できたことである。地域で求められている人材不足に焦点化し、現状での課題である若者による支援体制の強化をはかるために、より具体的な活動内容を吟味しておく必要が示唆された。</p>
これまでの活動実績	<p>これまでに認知症サポーター養成講座を受講した高齢者（20名）に対して認知症に対するイメージについてアンケートを実施している。その結果、高齢者のなかでは、社会活動に参加している者は生きがいを感じており、近所の人と交流がある者は社会活動に対する関心が高い。また、社会活動に参加していない理由としては時間的・精神的ゆとりがないことや健康上の理由が多いとの報告がある。また、地域住民の認知症の人とのかかわりには、認知症の人と接した経験・認知症の知識・ボランティア活動など経験や知識が影響する等の結果を得ている。</p> <p>今回、本学学生31名（男性14名、女性17名）にアンケートを実施した。その結果、男性7名、女性16名がボランティアをした事がある、という結果になった。また、今までに行ったボランティアとして、デイケア、体操教室、老人介護施設でレクリエーションをするボランティア、といった回答が返ってきた。そして「認知症サポーターとしてどのような役割を担えるか」という質問では、全体的に女性の方が男性に比べ多かった。男子学生において、ボランティア経験の有無によって判別してみると、経験の有る学生の方が認知症サポーターとしての役割を担え、積極的な取り組みができると考える傾向があった。このことから、以前から行っていたボランティア活動の経験を活かした具体的な支援内容を認知症の方にも提供できるのではないかと推察された。</p>

	時 期	内 容
年間活動計画	平成26年 12月	本大学主催の河崎大学健康教室の参加されている地域住民の高 齢者から認知症の支援に求められていること等をアンケートに より収集する。
	平成27年 1～5月	認知症支援のための学生サポーターを集める。
		地域包括支援センターが地域で実施している認知症啓蒙活動イ ベントへの参加
	6月～10月	地域包括支援センターが行っている訪問介護と同行するなかで、 認知症支援を求められている方との話し合いの場を設ける
	平成28年	学生サポーターによる認知症支援活動を開始

## 本学学生が考える認知症への支援策 および住民意識の相違

～認知症サポーター養成講座を受講して～

大阪河崎リハビリテーション大学  
作業療法学専攻  
1102020 田村 和久  
指導教員:石川 健二

### 認知症サポーター養成講座の内容

- ・認知症を理解する  
認知症が原因となる脳萎縮や脳血管の内容。中核症状、周辺症状(BPSD)他
- ・認知症の人の気持ちになる  
患者からの10の願い他
- ・寸劇  
電車通学での認知症高齢者との出会い  
～私ならどうする?～
- ・京都での認知症事例(DVD上映)

### はじめに

貝塚市ではどのような認知症に対する支援がされているのかを調べる。  
本学学生と地域高齢者を比較することで、具体的な支援策を提案したいと考えた。

高齢者を対象とした地域社会への参加に関する意識調査(高齢者白書2007年)では

・認知症への支援活動への関心は高いにもかかわらず、活動への参加者人数は伸びていない。

考えられる理由として・・・  
・活動への機会がもてない  
・NPO活動に関する情報がない

### 寸劇

電車通学での認知症高齢者との出会い  
～私ならどうする?～



### 認知症サポーター養成講座とは

2025年の高齢化対策を目標として、厚生労働省が支援・サービス提供体制を充実させるために地域ケアシステムの推進をはかっている。その一環として、地域包括支援センターや特定非営利活動法人(NPO)による認知症サポーターの育成がなされている。

### 方法・内容

- ・作業療法学専攻3年31名にアンケートを実施した。(認知症サポーター養成講座)
- ・地域包括支援センター職員3名に対して聞き取りにて山手地区の実態を調査した。
- ・高齢者20名のアンケート結果について本学学生と比較した。  
(本学学生の研究成果報告書より)

## 結果1

ボランティア経験有と回答した男女別の内容  
(本学学生のアンケート調査)

性別・人数	内容
男性・7名	施設デイケアでのボランティア 家事援助(買い物等)
女性・16名	イベントボランティア ・スポーツによる交流 ・国際交流会 ・介護施設での行事(夏祭り等) ・障害のある子供と触れ合い活動 小児施設でのボランティア 施設デイケアでのボランティア その他地域のボランティア活動等

## 結果4

山手地区包括支援センター職員からの聞き取り調査結果

Q:認知症サポーター養成講座はどのような場所でされていますか？

A:呼びかけとして老人会が行われている集会所、地区の公民館、本学での健康教室などを行っており、高齢者の参加が多い。今回、初めて当大学で認知症予防啓発活動を行う。

Q:認知症サポーターの受講する方の年齢は何歳代が多いですか？

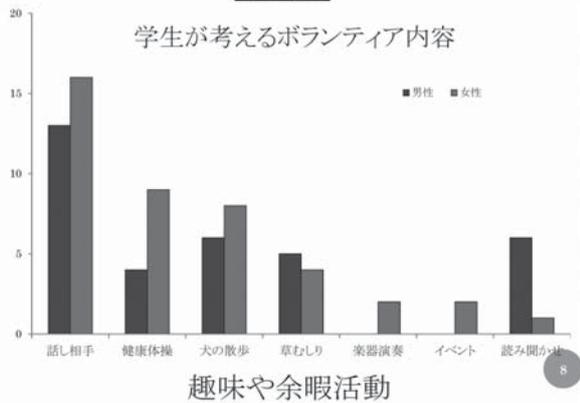
A:高齢者が対象となっているが、現在は認知症について知ってもらい40、50代に対し高齢者に気軽に声をかけてもらえるように活動を行っている。

Q:今後の課題は何ですか？

A:病院で認知症と診断を受けるが、認知症と家族や本人が認めたくないため当センターに来ることが少ない事。

## 結果2

学生が考えるボランティア内容



## 結果5

本学学生と地域住民との比較

講座を受講して感じた事(自由記載)

本学学生 31名

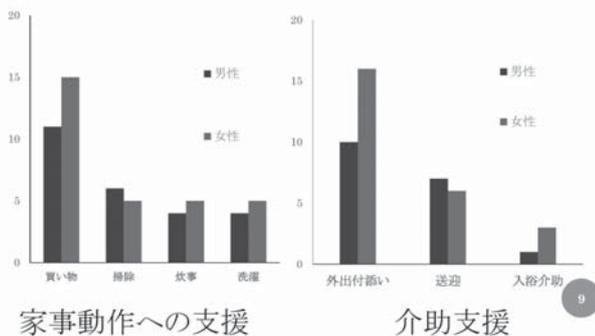
全ての方が支援策の記載があったことから本学学生31名は意欲があった。

・認知症で苦しむ本人さんや家族さんが追いつめられる前に何か手伝いができたらいいなと思った。(同意見他2名)

・自分が生活時に高齢者の方に出会い、困っていることがあれば笑顔で相手の気持ちを考えて行動したいと思いました。

## 結果3

学生が考えるボランティア内容



講座を受講して感じた事(自由記載)

地域住民(60歳以上) 20名

(本学学生の研究成果報告書より)

認知症についてもっと知りたい19名

認知症サポーターのボランティアを望む6名

・社会1人1人が啓発することによって、理解を指すことで気を付けて、少しでも認知症が少なくなるようにと思っています。

・認知症にできるだけならないよう対策を知っておきたいから。(同意見他4名)

## 考察1

- ・高齢者白書による意識調査と山手地区の調査をみると、ほぼ同等の結果であった。
- ・今回のアンケート結果は、聞き取り調査から得られた山手地区における現状の課題を裏付けるものであった。
- ・より若い世代の支援を得るためには、話し相手になることや健康体操を行うといった具体的な支援策を適時適切に提示できるようなシステムづくりが必要ではないか。

13

## 考察2

本学学生と地域住民との講座を受講して感じたことを比較してみると、地域住民は、啓発活動をしてもらう、本人の予防策といった記載内容が多かった。

一方、本学学生では、認知症の方に対し自分達に取り組もうとする意識や今後の関わりに対しての記載内容が多かった。

14

## 考察3

### 作業療法士の役割として

地域において作業療法士は、直接的なサービスを実施すると共に当事者とサポーターとのコーディネーターの役割も求められているのではないかと考える。

15

## 発表⑤

研究テーマ名	健康推進を目的とした梅の摂取習慣が骨密度および運動機能におよぼす効果についての調査研究
大 学 名	大阪河崎リハビリテーション大学
担当教員	理学療法学専攻 教授 中村 美砂
連 携 先	和歌山県田辺市 JA 梅振興室
活動の概要	<p>我々は、培養細胞を使用した実験系において梅には骨粗鬆症を予防する可能性のあることを明らかにしている（梅抽出物は骨芽細胞様細胞 MC3T3-E1 の分化と増殖を促進する. A <i>Prunus mume</i> Extract Stimulated the Proliferation and Differentiation of Osteoblastic MC3T3-E1 Cells. <i>Biosci. Biotechnol. Biochem.</i> 75 (10): 1907-11, 2011)。そこで、本研究では、人を対象として梅の摂取習慣と骨密度および運動機能との関係について調査した。</p> <p>大阪河崎リハビリテーション大学の教員と理学療法学専攻3年生と4年生の学生および和歌山県立医科大学の教員が参加した。田辺市内の各支所にお越しいただいた地域住民の方（主に中・高齢者）を対象に梅の摂取習慣を中心としたアンケート調査、ロコモティブシンドロームの指標となる足腰指数25の調査、身体測定（体重、身長、体脂肪率）、骨密度測定、運動機能検査（握力、前屈、片脚立ち時間、6m通常歩行時間、6m最大歩行時間）を主に行った。</p> <p>また、健康教室を開き、教員が骨粗しょう症やロコモティブシンドロームなど運動器関連の講義を行い、介護予防のための生活習慣についての理解を深めていただいた。学生は、検査・測定を行うと同時に参加していただいた方々の質問に答えたり、健康体操を行ったりした。</p>
これまでの活動実績	<p>合計7回田辺市に行き、男性約330名、女性約200名の協力を得ることができた。結果として、運動機能に関しては、梅の摂取量によって変化するという結果は得られなかったものの、長期間における梅の摂取は、男性においては、高齢者になってから高い骨密度を維持でき、女性では全世代において骨密度よりも体組成、特にBMIを低く保つことを明らかにすることができた。その他、運動機能とロコモティブシンドロームとの関係や転倒恐怖感と体組成との関係などが明らかとなった。以上の結果は、卒業研究としてまとめる予定である。また、本年の日本未病システム学会で学生が発表する予定である。</p> <p>卒業後、理学療法士として就労する彼らにとって、本研究活動は「高齢者」、「地域」、「健康増進」、「エビデンスに基づいた結論」、「連携・協力」を体験、理解する絶好の機会であったと考える。</p> <p>添付資料：新聞記事 学内新聞（キャンパストピックス）</p>

	時 期	内 容
年間活動計画	平成21年 10月7日	[JA 紀南上富田事業所] 骨密度の測定
	平成22年 2月18日 午前 午後	[三栖支所] [上芳養支所] 骨密度、運動機能（6m歩行、前屈、片足立ち、握力）、体組成（体重、身長、体脂肪率、筋力）の測定、足腰指数25および生活習慣に関するアンケート
	2月28日 午前 午後	[上秋津支所] [ふれあいセンター] 骨密度、運動機能（6m歩行、前屈、片足立ち、握力）、体組成（体重、身長、体脂肪率、筋力）の測定、足腰指数25および生活習慣に関するアンケート
	3月5日 午前	[上富田事業所] 骨密度、運動機能（片足立ち）、体組成（体重、身長、体脂肪率、筋力）の測定、足腰指数25および生活習慣に関するアンケート
	平成23年 11月10日	[田辺市農林水産業祭り] 内容は3月5日と同じ
	11月30日 午前 午後	[中芳養支所] [中央購買センターコピー] 内容は3月5日と同じ
	12月1日 午前 午後	三栖支所 上富田事業所 内容は3月5日と同じ  以上参加者 男性 約330名 女性 約200名

昭和21年7月10日第3種郵便物認可

骨粗しょう症予防

梅の効果検証開始

田辺市とJA紀南 組合員ら対象に

田辺市とJA紀南でつくる「紀州田辺うめ振興協議会」委託の研究グループが18日、JA組合員らを対象に梅の骨粗しょう症予防効果を検証する調査を始めた。骨密度を診断したり、アンケートをした

りする。参加者は「効果が証明されれば、産地活性化につながるのでは」と期待している。研究グループは県立医科大学(和歌山市)の宇都宮洋才准教授や大阪河崎リハビリテーション大学(大阪府貝塚市)の中村美砂教授らでつくり、梅の効能を調べている。11年には細胞実験で、梅に骨粗しょう症予防効果が予測される

ことを科学的に証明し、論文を学会に発表した。今回は、細胞レベルではなく、人間にどのくらい効果があるのかを調べたいという。

梅に関する食生活や生活習慣についてのアンケートを取ったり、骨密度や握力、前屈歩行などの運動機能性を測定したりする。骨粗しょう症と合わせて、骨や関節、筋肉の障害で要介護状態になる危険性が高い状態「ロコモティブシンドローム」の予防効果も調べる。

調査は田辺市中三栖のJA紀南三栖支所であり、宇都宮准教授が「高齢になり、こけが骨折し寝たきりになる人が

多いが、梅農家の人は寝込みがないという言い伝えがある。梅が効くのだからと考えた」と研究に至った経緯や梅の特性などを説明。宇都宮准教授と中村教授、大阪河崎リハビリテーション大学の学生10人が証明されたら、普段梅を食



梅による骨粗しょう症予防効果の調査で、骨密度検査を受ける参加者(田辺市中三栖で)

が集まった30〜70代の男女約30人を測定した。参加した梅農家の女性(70)は「梅エキスを手作りして、胃腸の調子が悪いときに食べるとすっきりする。いいことと話した。」

3月5日までに田辺市や上富田町の会場計5カ所、JA組合員ら計300〜400人を対象に調べる。この結果から約100人を選び、4月以降、病院で精密検査を受けてもらう2次調査に進むという。

公開交通取り締まり

21日 午前10時〜正午、田辺市で携帯電話等▽夜間、白浜町で飲酒・無免許▽午後2時〜4時、串本町で一時的停止等▽午後2時〜4時、那智勝浦町でシートベルト等





## Campus Topics

2013. 3.20 NO. 88

### ◇ スーパーバイザー会議 ◇

1月26日(土)

言語聴覚学専攻 3年生の臨床評価実習に向けて、臨床実習の指導者である実習施設の先生方をお招きして、実習に向けての注意点等のお話をいただきました。



### ◇ 国家試験 ◇



2月16日(土)に第15回言語聴覚士国家試験  
2月24日(日)に第48回理学療法士・作業療法士  
国家試験が実施されました。

緊張の面持ちでしたが、試験会場前でみんなで気合い入れの円陣を組み、元気に試験に臨みました。

日頃の勉強の成果が十分に発揮できますように。。

祈っています☆

☆作業療法学専攻4年生☆  
試験前の気合い入れ!



### ◇ 動物慰霊祭 ◇

2月13日(水)

学生と教職員が参列し、教育や研究のために尊い命を捧げてくれた多くの実験動物に対し、心より感謝と哀悼の意を込めて手を合わせ献花しました。



引き続き、坪田教授による「動物実験に関する教育訓練講義」が開催されました。動物実験の実施時における留意点等を学びました。

## Student's Voice



国家試験が終わりました。想像以上に緊張せずに、落ち着いて出来ました。結果が届くまで不安です。振り返ると、9月から国家試験対策講義を先生方にして頂き、10月から班での勉強会を始めました。本格的に勉強を始めた当初は、分からない事が多く、不安でした。「こんなんで受かるのか?」「落ちたらどうしよう…」と、こんなことばかり考えていました。それでも、日を追うごとに分かるが増え、勉強が楽しくなりました。しかしその期間は短く、すぐに伸び悩みました。

私の場合は、就職が決まったのも国家試験1週間前と遅かったこともあり、不安や焦りが増し、我慢の日々が長かったです。それでも息抜きをしながら、なんとか最後まで完走出来ました。

国家試験勉強は、しんどいときも楽しいときもあります。が、息抜きをしながら、なんとか乗り切れるものです!そしてその時、「私はたくさんの人に支えられているんだ」と実感しました。

私たち4期生のために、対策講義をして下さった先生方、温かく見守って下さった皆様、本当に有難うございました。



理学療法学専攻4年 庄野 良恵



## 大阪河崎リハビリテーション大学

リハビリテーション学部 リハビリテーション学科

□ 言語聴覚学専攻 □ 作業療法学専攻 □ 理学療法学専攻

〒597-0104 大阪府貝塚市水間 158 番地 TEL:072-446-6700(代) FAX:072-446-6767

ホムズ http://www.kawasakigakuen.ac.jp/ Eメール nyushi@kawasakigakuen.ac.jp

◇ 紀州田辺うめ振興協議会への調査研究協力 ◇  
～ 中村美砂教授と学生たちの学外調査 ～



和歌山県田辺市と JA 紀南でつくる「紀州田辺うめ振興協議会」が、梅の成分が骨粗鬆症予防に効果があるのかを探る調査研究を、研究グループに委託し、JA 組合員らを対象に梅の骨粗鬆症予防効果を検証する調査が開始されました。

和歌山県立医科大学の宇都宮洋才准教授と本学の中村美砂教授の研究グループは、梅の効能を調査されており、2011 年には細胞実験で、梅に骨粗鬆症予防効果が予測されることを科学的に証明し、梅の抽出物が骨形成を担う骨芽細胞の分化と増殖を促すことを確認しました。

更に、梅の摂取と骨粗鬆症の予防効果について検証するため、今年の 2 月から JA 紀南の梅生産者ら約 150 名に対して、密度測定、運動機能性測定、食生活に関するアンケートなどの 1 次調査を実施されています。来年度は 2 次調査として、1 次調査の結果の中から更に 100 名の方を対象に、精密な骨密度測定、採血などを行いながら追跡調査を行う予定とのことです。

今回の 1 次調査には、本学の理学療法学専攻の 3 年生の学生ら 11 名も卒業研究の一環として調査に参加協力しています。

また、同調査には、本学の岡田先生、亀田先生、高倉先生、久利先生も参加協力されています。



## Student's Voice

測定に参加した学生さんの声です☆

今回、僕たちは卒業研究のテーマとして高齢者の生活習慣と運動機能の関係を調べるために和歌山県田辺市に行きました。田辺市役所と JA 紀南の方々に協力していただき、5ヶ所の場所をお借りして 3 日間かけて調査をさせていただきました。



内容は、まず普段の食事内容、運動歴、腰痛についてのアンケートを書いていただきます。次に身長、体重、骨密度などの身体測定や握力、片脚立位などの運動機能、背中の湾曲状態などを調べさせていただくというものです。この研究は中村先生と和歌山医大との共同研究の一部で、本学では卒研の中村先生、久利先生、高倉先生のグループの学生 11 名が参加しました。また、岡田先生や亀田先生、森先輩にも参加していただきました。



測定中☆



合計 149 名の方に参加していただきました。初日は初めてということもあって測定がなかなかスムーズに進まなかったこともあったのですが、2 回目からは反省を活かして、よりスムーズに測定でき、わかりやすい説明などもできるようになりました。また、来ていただいた方々から、「いつも家で一人であるから寂しいけど、今日は孫と同じくらいの学生さんと話せて嬉しい」と言われて嬉しかったです。今回の調査の経験が、臨床の現場で働けるようになった時に応用できれば良いなと思っています。

理学療法学専攻 3 年 奥見 彰太

# 梅の摂取習慣が骨密度および運動機能におよぼす効果についての調査研究



大阪河崎リハビリテーション大学  
リハビリテーション学部 理学療法専攻  
第4回生 竹本 太一

## 今回の研究調査で行った内容②

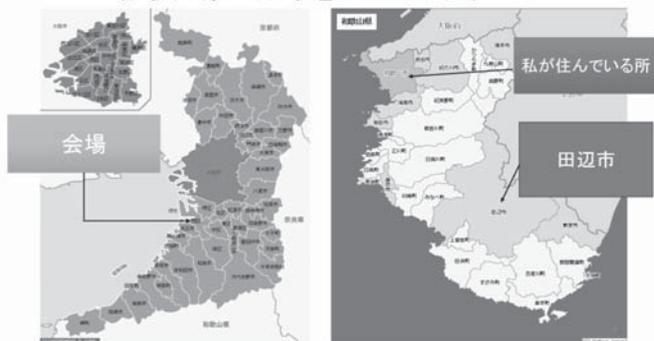
- ・運動機能検査(握力、前屈、片脚立ち時間、6m通常歩行時間、6m最大歩行時間)
- ・健康教室の開講(教員が骨粗しょう症やロコモティブシンドロームなど運動器関連の講義)

※私達は、検査・測定を行うと同時に参加していただいた方々の質問に答えたり、健康体操を一緒に行ったりした。

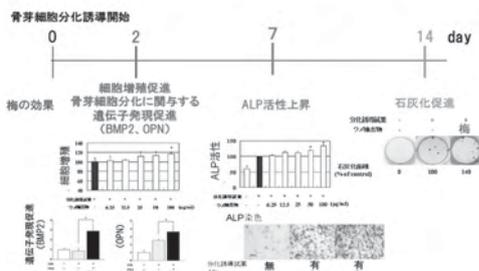
## ～はじめに～

- ・今回の研究目的は、「健康推進を目的とした梅の摂取習慣が骨密度および運動機能におよぼす効果についての調査研究」というものである。
- この研究は平成21年度から大阪河崎リハビリテーション大学の教員と和歌山県立医科大学の教員が行っており、今回その調査に参加させていただく機会を得たので、活動の内容の紹介させていただきます。

## 和歌山県田辺市を知っていますか？



## 細胞レベルで梅が骨粗鬆症の予防効果を有する可能性を見出した (Biosci. Biotechnol. Biochem. 75(10):1907-11, 2011)



## 活動記録(実施日時と場所)

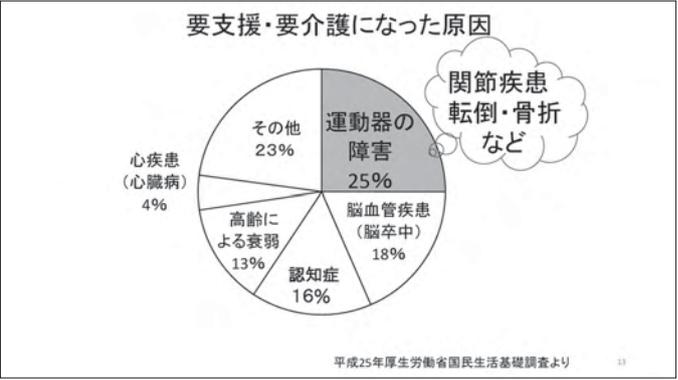
平成22年	2月 18日	三栢支所 上芳養支所
	2月 28日	上秋津支所 ふれあいセンター
	3月 5日	上富田事業所
平成23年	11月 10日	田辺市農林水産業祭り
	11月 30日	中芳養支所 中央購買センターコピア
	12月 1日	三栢支所 上富田事業所
合計	男性	327 名
	女性	201 名

## 今回の研究調査で行った内容①

- ・田辺市内の各支所にお越しいただいた地域住民の方(主に中・高齢者)を対象に梅の摂取習慣を中心としたアンケート調査
- ・ロコモティブシンドロームの指標となる足腰指数25の調査
- ・身体測定(体重、身長、体脂肪率)
- ・骨密度測定



アンケート調査の様子



運動器の障害とは・・・  
 ・ロコモティブシンドロームという言葉を知っていますか？

**ロコモティブシンドロームとは？**  
 (運動器症候群)

「運動器(骨、関節、筋肉)の障害」により「要介護になる」、「寝たきり」になる危険性が高い状態



骨粗鬆症とは・・・

- ・骨の中に鬆(す)が入ったような状態になること。骨の中がスカスカになり脆くなってしまう病気。ほんの小さな衝撃でも骨折しやすくなるのが特徴である。
- ・骨粗鬆症と診断される要因の1つとして、骨密度の低下がある。



結果まとめ

- [女性] 全世代において梅の摂取が骨密度よりも体組成、特にBMIに影響している
- [男性] 長期間におよぶ梅の摂取が高齢者になって骨密度の差に影響する
- [男・女] 梅摂取と運動機能との関係は非常に弱い

## まとめ

### 梅の摂取は・・・

- ・女性では年齢に無関係に肥満抑制に有効である
- ・男性では高齢期における骨密度維持に有効である

週1個～4個の摂取を長期間続けるのが良いのでは？

17

## 今回の研究で・・・

- ・地域連携の研究であったため、参加者に対する配慮を考えた。→参加(協力)してくれた方々は一般の方であるため詳しく説明を行い、きちんと理解してくれるようにした。
- ・若い人達と話することができて楽しかったという意見が多数あった。→こういった意見がある中で触れ合えたことがすごく楽しかった。

18

2013年2月21日(木)の新聞記事

梅の効果検証開始  
梅の摂取が1次調査で骨粗鬆症の予防効果を検証

【田辺】 田辺とJIA 国立研の京都府 研究グループが1次調査 骨粗鬆症の予防効果を検証

【田辺】 田辺とJIA 国立研の京都府 研究グループが1次調査 骨粗鬆症の予防効果を検証

【田辺】 田辺とJIA 国立研の京都府 研究グループが1次調査 骨粗鬆症の予防効果を検証

## 今回の研究に参加した学生と教員



20

発表⑥

研究テーマ名	円山川の河川環境から見る里山の再生 ～海と街と山を繋ぐ取り組みを目指して～
大 学 名	大阪商業大学
担 当 教 員	経済学部 准教授 原田 禎夫
連 携 先	兵庫県豊岡市楽々浦地区
活動の概要	<p>近年、各地の海岸に大量のごみが押し寄せる、いわゆる漂着ごみ問題（海ごみ）が深刻化している。最近の研究では、こうしたごみは内陸部から川を通じて流れ出した陸域由来のものが多くを占めていることが明らかになっている。また、その大半は食品容器や飲料ボトル、レジ袋など生活ごみであり、これらを生物が誤飲・誤食したり、海や川の底を覆うことによる水質悪化など、生態系への影響も指摘されている。</p> <p>現在のところ、豊岡市を中心に野生復帰の試みが行われているコウノトリがこれらを誤飲・誤食したとの報告はないが、すでにアホウドリなどでは誤飲・誤食が繁殖に大きな影響を与えていることが各種の研究からも明らかになっている。このことから、大型の肉食鳥類であるコウノトリにとっても、水生生物を主食とする特性上、潜在的な脅威であることはいままでのない。また、ラムサール条約登録湿地となった円山川およびその周辺の豊かな生態系を維持するためにも、漂着ごみ問題の深刻化を未然に防ぐことは重要な課題である。</p> <p>そこで本研究では、オンラインごみマップ (<a href="http://gomi-map.org">http://gomi-map.org</a>) を用いて、円山川河口域に位置する楽々浦地区住民との協働により円山川流域の漂着ごみの実態を調査し、今後の対策の基礎となるデータを収集するとともに、人々の暮らしが生き物の共生によって成り立っていたころの生態系の再生を目的として有効な環境保全策と地域振興策の可能性を探る。</p>
これまでの活動実績	<p>本ゼミでは、平成25年度より、豊岡市コウノトリ野生復帰学術研究奨励を受けて、豊岡市楽々浦地区で調査活動に取り組んでいる。昨年度の成果については「オンラインごみマップを用いた、円山川流域の漂着ごみの調査 戸島湿地の河川環境から見る里山の再生～コウノトリも住みやすい環境づくりを目指して～」(平成25年度 豊岡市コウノトリ野生復帰学術研究奨励論文)として公表している。</p>

	時 期	内 容
年間活動計画		<p>本研究では、豊岡市内の円山川およびその周辺の支流（水田の用水路を含む）においてモデル地域を選定し、地域住民との協働により、オンラインごみマップを用いて漂着ごみの実地調査を行なう。その結果は、オンラインごみマップのサイトにおいて随時更新することで最新の状況を可視化し、それをもとに地域における今後の対策について検討する。</p> <p>今年度は下記のような日程で調査を行う。</p>
	6月	豊岡市役所ほかへのヒアリング
	8月	楽々浦地区におけるフィールド調査①（2日間を予定）
	9月	<p>楽々浦地区におけるフィールド調査②（2日間を予定）</p> <p>→学生と地域住民が共同で河川の漂着ごみの状況を調査・記録し、ごみマップを制作する。</p>
	10月	<p>楽々浦地区における今後の対策の検討（2日間を予定）</p> <p>→ごみマップをもとに学生、地域住民による合同討議を開催し、実行可能な解決策を議論する。</p>
	11月	報告書の作成
	1月	成果の報告

# 円山川の河川環境からみる 里山の再生

～海と街と山を繋ぐ取り組みを目指して～

大阪商業大学経済学部  
原田ゼミナール



川を埋め尽くす大量のごみ

# 新たな地球環境問題、 海ごみ。



破片化するプラスチックごみ



海岸を埋め尽くす大量のごみ



被害にあったコアホドリ



## コウノトリ“も”すめる

「コウノトリも住める豊かな環境(自然と文化)は、人間にとっても持続可能で健康的に暮らせる環境であるに違いない」

—豊岡市

 大阪商業大学  
Osaka University of Commerce



## 「円山川下流域・周辺水田」のラムサール条約湿地登録

■2012年、水鳥をはじめ多くの生物を支えている国際的に重要な湿地として認定。

- ✓日本の河川では初の登録
- ✓人々のくらしと「賢明な利用」(Wise Use)

 大阪商業大学  
Osaka University of Commerce



## 楽々浦地区の概要

- 楽々浦地区の人口  
46人
- 世帯数  
15世帯
- 65歳以上の人口  
21人
- 12歳以下の人口  
0人

いづれ  
限界集落に



## オンラインごみマップとは

どこに  
どんな  
どれくらい

情報を視覚的に  
知ることが出来る  
オンライン上の  
マップで共有で  
きる



## ごみマップ作成の効果

- 適切な対策を考察できる
- 「経験」が伴うため当事者から関係者へ
- 地区のみなさんの意識が変化



ごみの調査



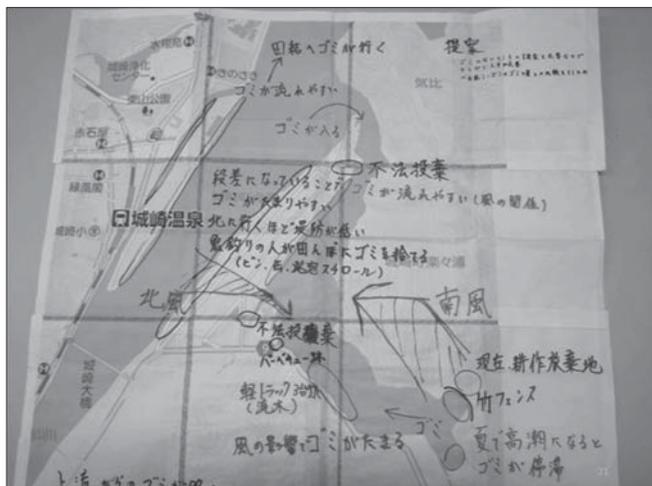
- プラスチックなどの生活ごみが多いが枯草や流木などの自然ゴミも多い。
- 楽々浦湾内に流れ込んだごみや流木は湾内を漂いさまざまな被害をもたらす。



地区のみなさんと話し合い

### 豊岡市での提案した解決策

- ・流木を薪ストーブの燃料として再資源化
- ・これまでは、山中に放置されていた間伐材を良質な薪に加工し、販売する仕組みの構築
- ・森林再生の取り組みの支援や、流木によって生じた被害の補償にあてることも可能に
- ・地区の住民が自分たちの住む地域の現状を正確に把握し、漂着ゴミ被害を広く発信する。



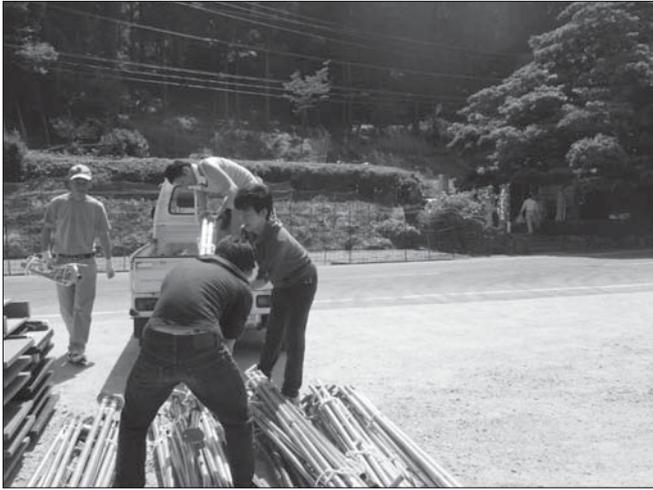
### 研究・調査を行うも...

地区の人も私たちも互いのことをまだよく知らない



私たちが楽々浦地区のことをよく知るために、地区で長く続く「鼻かけ地蔵祭り」に参加した





忘れられつつある魅力を発見


**大阪商業大学**  
Osaka University of Commerce





## 今後の課題と解決に向けて

### 課題

外部の支援の獲得や被害の状況の的確な発信をして下流部一地域だけでなく円山川流域全体での取り組みが必要

### 解決に向けて

→もっと広いつながりを持った仕組みや場をつくる  
ことが求められる



## おわりに

・もっと広く地域間連携に加え情報の共有、取り組みが必要

・短期的ではなく長期的な計画が不可欠であり、後輩への引き継ぎ



## 楽々浦地区が目指す姿

・お祭りが終わった後に地区の方々が楽しそうに語る記憶の中にある昔の楽々浦

・昔のように遊覧船がでて、おいしいハマグリが獲れた円山川、楽々浦湾

・人が生活の一部として円山川や楽々浦湾を利用し人と自然とが共存共栄していた頃の楽々浦



ご静聴ありがとうございました



研究テーマ名	福島県の青果物の売場企画
大 学 名	大阪成蹊大学
担当教員	マネジメント学部 教授 田中 浩子
連 携 先	大阪府中央卸売市場、大果大阪青果株式会社（卸売業）、福島県大阪事務所、JA 全農福島
活動の概要	<p>大阪成蹊学園（大学・短大）は、2013年1月に大阪府中央卸売市場と事業連携を締結し、学生参加型のレシピ開発、手書きPOPによる売り場活性化など食の安全や安心、食育等の情報発信を行っている。2014年度、食ビジネスコース2年生（専門演習1）および3年生のコース学習として、大阪府中央卸売市場、卸売業の大果大阪青果株式会社、JA 全農福島、福島県大阪事務所の協力を得て、「福島県の青果物販売に関する売り場提案」を行うことになった。スーパーマーケットの青果売り場に、福島県産品のコーナーを設置するという前提で、風評被害を打破するために企画するものである。</p> <p>売り場作りは、マーケティングの中のプロモーションの1つであり、同じ商品であっても、並べ方、テーマ性によって売上げは大きく変わる。福島県の農作物出荷に際しては、十分な安全検査が行われているにも関わらず、その販売額は震災前までには回復していない状況である。単純に検査結果を公表するだけでは積極的な購買には繋がらず、売り場の企画が求められる。</p> <p>2年生15名を2グループ、3年生21名を4グループに分け、チームごとに課題に取り組んだ。外部講師より「食品スーパーマーケットの評価について」というテーマで、食品小売業において売場作りをする上で、買い物しやすい陳列方法やレジ対応について講義を受けた。次に産地の現状を知るために福島県事務所やJA 全農福島の担当者から販売状況や安全管理、情報開示、プロモーションなどについて説明を受け、これを元に企画案作りに入った。6月17日、企画提案発表会を行い、関係諸団体の方々からアドバイスももらった。7月13日の本学フードフェスタにおいて、実際の売り場を展示しプレゼンテーションを行い、参加者にそれぞれの売場を評価し「買いたい売場」へ投票してもらった。優秀作品は実際のスーパーマーケットにおいて、売り場展開された。</p>
これまでの活動実績	<p><u>2013年8月21日</u> 大阪府中央卸売市場連携事業「フードトラベラー」を本学にて開催 ＜岐阜県・JA 全農岐阜、高知県・高知県園芸連＞</p> <p><u>2013年11月10日</u> 大阪府中央卸売市場「開場35周年記念市場まつり」に参加 ＜徳島県・JA 全農とくしま＞</p> <p><u>12月7日、14日、28日</u> 大阪府中央卸売市場「土曜日」へPOP提供 於：グランフロント大阪 パナソニックセンター大阪 ＜大分県、和歌山県、山形県＞</p> <p><u>2014年1月16日、17日</u> 大阪府中央卸売市場との事業提携の一環として 株式会社日本アクセス 「春季展示商談会 [生鮮コーナー・青果（産官学連携）]」に出展 於：インテックス大阪 ＜大分県、佐賀県＞</p> <p><u>2014年4月より</u> 大阪府池田市 「大阪池田チキチキ探検隊」に参加</p>

	時 期	内 容
年間活動計画	4月8日	第1回 活動研究の目的 進め方の説明 班分け
	4月15日	第2回 外部講師講演 株式会社萌企画の伯井裕子氏、網島婦貴氏 「食品スーパーマーケットの評価について」
	4月22日	第3回 外部講師講演 福島県大阪事務所 松浦 幹一郎氏 JA 全農福島 斎藤正樹氏 三浦 恒氏 「福島県の青果物販売の現状と課題」
	4月29日	第4回 課題の整理
	5月13日	第5回 POP文字の基礎 ① POP文字を練習
	5月20日	第6回 POP文字の基礎 ② POP文字を練習
	5月27日	第7回 「食品の表示」「企画書の書き方」
	6月3日	第8回 企画書作成①
	6月10日	第9回 企画書作成② プレゼンテーション練習
	6月17日	第10回 売場提案 企画発表会
	6月24日	第11回 売場作り実習①
	7月1日	第12回 売場作り実習②
	7月8日	第13回 実際の野菜を使って試作
	7月11日	※発表会準備
	7月13日	第14回 売場提案 発表会
7月15日	第15回 売場作り実習の振り返りと課題の整理	

## 「福島県の青果物の売場企画」

大阪成蹊大学 マネジメント学部 マネジメント学科  
食ビジネスコース

### (1) 実施の概要

本学園は2013年1月に大阪府中央卸売市場と事業提携を締結しており、大学・短大にある食関連の4コース（クラス）と市場・卸売業・生産者の協力により、売場提案やレシピ提供、食育等の情報発信を行っている。

2014年4月から7月にかけて「福島県の青果物販売に関する売場提案」というテーマで、大阪府中央卸売市場、卸売業の大果大阪青果株式会社、JA全農福島、福島県大阪事務所、株式会社萌企画の協力を得てPBLを実施した。参加学生は2年生15名、3年生21名で、2年生を2グループに、3年生を4グループに分けた。

スーパーマーケットの野菜・果物売場に、福島県産品のコーナーを設置するという前提で、風評被害を打破するために企画するものである。売場作りは、マーケティングの中のプロモーションの1つであり、同じ商品であっても、並べ方、テーマ性によって売上げは大きく変わる。福島県の農作物出荷に際しては、十分な安全検査が行われているにも関わらず、その販売額は震災前までには回復していない。単純に検査結果を公表するだけでは積極的な購買には繋がらないため、売場の企画が求められる。課題に沿って、売場のコンセプトを決め、実際の野菜や果物を使ってグループごとに売場を作り、本コースの1年生ならびにオープンキャンパスに参加した高校生に「買いたい売場」へ投票してもらうという試みを実施した。

4月8日	第1回活動研究の目的 進め方の説明 グループ分け
4月15日	第2回株式会社萌企画の伯井裕子氏、網島婦貴氏 「食品スーパーマーケットの評価について」
4月22日	第3回 福島県大阪事務所 松浦幹一郎氏 JA全農福島 斎藤正樹氏 三浦恒氏 「福島県の青果物販売の現状と課題」
4月29日	第4回 課題の整理
5月13日	第5回 POP文字の基礎 ① POP文字を練習
5月20日	第6回 POP文字の基礎 ② POP文字を練習
5月27日	第7回 「食品の表示」 「企画書の書き方」
6月3日	第8回 企画書作成①
6月10日	第9回 企画書作成②プレゼンテーション練習
6月17日	第10回 売場提案 企画発表会
6月24日	第11回 売場作り実習①
7月1日	第12回 売場作り実習②
7月8日	第13回 実際の野菜を使って試作
7月11日	第14回 売場作り
7月13日	第15回 売場提案発表会
7月15日	第16回 売場提案の振り返りと課題の整理

図1 実施スケジュール

## 2)実施スケジュール

実施スケジュールは図1に示した通りである。第1回にはPBLの目的や進め方について説明し、グループ分けを行った。第2回には「食品スーパーマーケットの評価について」というテーマで、食品小売業において売場作りをする上で、買い物をしやすい陳列方法やレジ対応について株式会社萌企画の伯井氏、網島氏に講義をお願いした。第3回には、産地の現状を知るために福島県事務所やJA全農福島の担当者から販売状況や安全管理、情報開示、プロモーションなどについて説明を受け、これを元に第4回から企画案作りに入った。第5回、第6回では、売場作りに欠かせないPOP(Point Of Purchase—購買時点となる売場において、買物客に対しその商品やサービスの存在を知らせ、価値を訴求し、購買意欲を高めるための広告・宣伝物)を作成するために、POP文字の練習を行った。第7回では商品説明をする際に注意すべき薬事法や景品表示法について解説し、また企画書の書き方についても説明を行った。第8回では課題を受けてグループ内で討議しコンセプトを決めていったが、授業時間内に決定できないグループもあった。第9回ではコンセプトをもとに、売場構成を考え、企画発表会のプレゼンテーションの準備を行った。第10回には企画提案発表会を行い、外部講師や関係諸団体の方々からアドバイスを頂いた。企画案の発表会では「マイナスのイメージを払拭する福島の野菜の色つやを際立たせる並べ方」や「福島の人だけでなくみんな一緒に、元気に前へ」など、柔軟な発想が見られた。第11回、第12回は、幅150×奥行60×高さ70(cm)のテーブルをスーパーマーケットの特設コーナーに見立て、野菜・果物以外の部分の作成を行った。第13回では福島県より発表会と同種同量の野菜・果物の提供を受け試作を行った。企画書通りに売場が出来上がらないグループもあり、3日後の発表会準備日に向けて、連日修正を行った。第15回にはオープンキャンパスの催しの1つであるフードフェスタにおいて、実際の売場を設営し(図2)、プレゼンテーションを行い、参加者にそれぞれの売場を評価し投票してもらった。最終回にはPBL全体の振り返りを行った。



図2 発表会の作品

### (3) 成果と課題

実際のスーパーマーケットの売場のイメージに縛られることなく、自由な発想で売場提案ができたことは、外部講師や協力団体からも称賛を頂いた。グループメンバーとの協調は図れたものの、積極的に討議に参加するメンバーと、そうでないメンバーの差があり、次回以降の最も重要な課題となった。

9月20日にはダイエー古川橋店で開催された「大阪府中央卸売市場まつり」の中で、実際に売場を展開した(図3)。この夏、野菜が天候不良によって高騰したこともあり、安く提供される特設コーナーには多くの買い物客が訪れた。「学生による売場作り」ということに関心を持ち、立ち寄る方もおられ、関係者からも高い評価をいただいた。

今回の売場企画を通して、「与えられた課題について、解決への筋道を立てる力が向上した」、「グループ内で、自分の役割を理解して、その役割を果すことができるようになった」という感想が聞かれた。PBLで身につけた力を活かして、いろいろな売場作りに挑戦していく所存である。



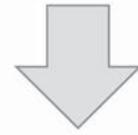
図3 小売店における展開 (ダイエー古川橋店)

## 福島県の青果物の売場企画

大阪成蹊大学 マネジメント学部  
食ビジネスコース

1

## 直接的な風評被害の打破



魅力的・買いたくなる売場作りで  
売り上げを向上させる！

4

## - 福島県からの課題 -

HELP!

いかにして福島県の青果物をPRするか？  
福島県の青果物の安全性のPR方法。

野菜売場の提案！

2

## 講義2



株式会社 萌企画

- ・消費者から見て買いたい売場
- ・売場において重要なこと



4

## 講義1



JA全農福島  
福島県大阪事務所

- ・福島県の現状
- ・福島県の青果物の安全性



3

看板やPOPを作り

- ・POP文字を書く練習
- ・小さいポスターや看板などを作成



5

## 売場企画～作成

2年生、3年生が6チームに分かれてテーマとコンセプトを決めて売場づくりの企画を立て作成へ



## 冷やされた野菜

プラスチックのクラッシュアイスを見立てる



## 涼しげな雰囲気

ザル、すだれ、桶、風鈴など夏を連想させるもの

13

## 超簡単! トマトの塩オリーブ和え

材料 トマト 200g オリーブ 2g  
塩 小さじ1/6 オリーブ油 小さじ2

作り方 ① トマトは くり形切りにし、一口大に切る。  
② 塩、オリーブ油を合わせ すべて和える。



今晚のおかず!!

14

POPや看板はカラフルで見やすく!



福島県産の野菜を使った  
ドレッシングや味噌



17

試食を実施



美味しさ・安全性を  
その場で実感!

15

マイナスのイメージ



「安全性、美味しさ」を  
伝えられるような売場づくり

18



### 売場のコンセプト

福島県の人々と心一つにし、元気を出して一緒に前へ進みましょう！！



## 売場のイメージ分析

売場作りはマーケティングの中のプロモーションの1つ



商品の並べ方、テーマ性によって売上げは変化する



消費者の購買行動と感情との間にどのような関係が？

- SD 法で印象評価
- 因子分析

震災後新たなスタート  
売場コンセプト

『雨のち晴れ』  
『東北に虹を架けよう』



ダイエー古川橋店の福島県フェアに参加



2014年9月20・21日

23

完成した売場  
We ♥ FUKUSHIMA



## 15回の授業とイベントから

与えられた課題について解決への筋道を立てる力が向上した。

グループ内で自分の役割を理解してその役割を果たすことができるようになった。

積極的に企画に参加するメンバーとそうでないメンバーの差がある。

24

研究テーマ名	地域連携デザイン学習 池田市観光スポット・ガイドブック制作
大学名	大阪成蹊大学
担当教員	芸術学部・教授 門脇 英純
連携先	池田市
活動の概要	<p>池田市観光スポット・ガイドブック制作 (A 4 /24P) 連携対応学年：芸術学部情報デザイン学科ビジュアルデザインコース 2年</p> <p>《絆をコンセプトにした観光スポット・ガイドブック制作》</p> <p>池田市では、市内に点在して観光スポットがある。複数の観光案内を目的にしたパンフレットはあるが、観光客が手にする事は少ない現状であった。今回、池田市より依頼を受け、ファミリー層をターゲットにし、家族で楽しめる「絆」をコンセプトに、「体験」「発見」「知る」を取材・編集の基準に、デザイン面では「ゆったりと」「伝わるデザイン」で仕上げた。大学での受け口として、情報デザイン学科ビジュアルデザインコース 2年の後期科目で地域連携デザイン学習とし活動した。五月山動物園やインスタントラーメン発明記念館などの観光施設を訪問し、取材と撮影を行った。取材の内容としては、施設の見どころやアピールポイントといった共通の質問のほかに、施設ごとの質問もあり、五月山動物園の担当者には動物に対して気をつけてほしいことなどを取材した。</p> <p>池田市イメージキャラクターのふくまるを活用し、エリアごとに関係したクイズを掲載するなど「絆を深める」ことや「一瞬で目を引くパンフレット」を意識し、キャッチフレーズなどを工夫することで市の発行するものとしては、今迄に無いパンフレットとなった。</p> <p>本学で市関係者を招いて、3つのチームに分かれて第1回プレゼンを行ない、デザイン性や学生視点のコンセプトに好評価をいただいた。観光施設への取材後、第2回のプレゼンを実施し採用案が決定した。取り組みは、「いけだ広報」、池田市HPなどで市民にも紹介されている。平成26年3月にデータを納品し、4万部発行され、池田市観光案内所をはじめインスタントラーメン発明記念館などの観光施設で無料配布されている。観光客の多くが手に取り、関心を持ってもらっていると高い評価をいただいている。</p>
これまでの活動実績	<p>発表学生のこれまでの活動実績 (芸術学部情報デザイン学科ビジュアルデザインコース)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大阪卸市場 JA 大浜、JA 熊本：トマト酢、飲むトマト酢のボトル瓶ラベルデザイン 平成25年4月～10月</li> <li>○大阪市東淀川区：街頭犯罪防止ポスターデザイン (防犯) 平成25年7月～平成26年3月</li> <li>○大阪府都市未来創造局：「Loving OSAKA 納税」の知名度の向上のため、広報に用いるPRチラシデザイン 平成25年11月～平成26年1月末</li> <li>○東淀川区：東淀川アートレンタル・プロジェクト 平成26年6月～平成27年9月</li> </ul>

## 大阪成蹊大学 芸術学部情報デザイン学科 ビジュアルデザインコース

地域連携デザイン学習

「池田市観光スポット・ガイドブック制作」「広報いけだ 裏表紙の編集及びデザイン」

### 池田市観光スポット・ガイドブック

内容：池田市の観光スポットをまとめた24Pのブック制作

連携先：池田市市民生活部

連携対応学年：芸術学部情報デザイン学科ビジュアルデザインコース2年（情報デザイン専門演習7）

所管部署：大阪成蹊大学・大阪成蹊大学短期大学 教育研究支援センター

参加学生

Aグループ：小寺翼、太田実来、竹本真子、セツ・ゲンコン

Bグループ：伊達由季乃、五百崎駿介、塩崎奈央、寺嶋知花、西優子

Cグループ：増田大貴、敷山大起、田冰、中明日香、濱口優貴子、李文沢

### 絆をコンセプトにした観光スポット・ガイドブック制作

池田市では、市内に点在して観光スポットがある。複数の観光案内を目的にしたパンフレットはあるが、観光客が手にする事は少ない現状であった。今回、池田市より依頼を受け、ファミリー層をターゲットにし、家族で楽しめる「絆」をコンセプトに、「体験」「発見」「知る」を取材・編集の基準に、デザイン面では、「ゆったりと」、「伝わるデザイン」で仕上げた。大学での受け口として、情報デザイン学科ビジュアルデザインコース2年の後期科目（専門演習7）選択必修で地域連携デザイン学習とし活動した。五月山動物園・五月山児童文化センター・落語みゅーじあむ・インスタントラーメン発明記念館に訪問し、取材と撮影を行い、取材の

内容としては、施設の見どころやアピールポイントといった施設共通の質問のほかに、施設ごとの質問もあり、五月山動物園の担当者には動物に対して気をつけてほしいことなどを取材した。池田市イメージキャラクターのふくまるを活用し、エリアごとに関係したクイズが掲載し、「絆を深める」ことを意識し、「一瞬で目を引くパンフレット」をコンセプトにしキャッチフレーズなど強調した内容で今迄に無いパンフレットとなった。本学で池田市関係者を招いて、第1回プレゼンを行なった。連携先より好評価をいただいた。12/7 観光スポットへ取材。第2目のプレゼンが1/20に行なわれた。取り組み内容は、「いけだ広報」、池田市HPで市民に紹介されている。

### ▼取材風景



## 大阪成蹊大学 芸術学部情報デザイン学科 ビジュアルデザインコース

### ▼取材風景



### ▼プレゼンテーション風景



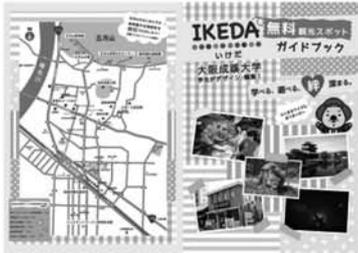
### 年間活動計画

時期	内容
平成25年9月23日	授業オリエンテーション制作計画、グループ分け
平成25年9月30日	プランニング 無料観光ガイドブック制作コンセプト及び今後の予定を設計
平成25年10月7日	グループでの無料観光ガイドブック制作コンセプト発表
平成25年10月14日	池田市観光拠点リサーチ
平成25年10月21日	池田市市長表敬訪問
平成25年10月28日	無料観光ガイドブック試作
平成25年11月4日	無料観光ガイドブック試作
平成25年11月11日	誌面構成およびデザイン・プレゼンテーション準備
平成25年11月18日	誌面構成およびデザイン 第1回目プレゼンテーション ※池田市職員審査員
平成25年11月25日	プレゼンテーション振返り デザイン、編集の修正
平成25年12月2日	池田市観光拠点取材撮影
平成25年12月7日	池田市観光拠点取材撮影
平成25年12月9日	改善、問題点の修正
平成26年1月6日	改善、問題点の修正
平成26年1月13日	誌面構成およびデザイン・プレゼンテーション準備
平成26年1月20日	最終選考会 ※池田市職員審査員
平成26年1月27日	選考作品紙面デザイン修正及び校正
平成26年2月3日	選考作品紙面デザイン修正及び校正
平成26年3月	最終データ入稿
平成26年4月21日	池田市市長表敬訪問 完成報告

# 大阪成蹊大学 芸術学部情報デザイン学科 ビジュアルデザインコース

## ページ構成

表紙



P.1~2 インスタントラーメン発明記念館



P.3~4 五月山エリア



P.5~6 五月山エリア



P.7~8 歴史的建造物集積エリア



P.9~10 歴史的建造物集積エリア



P.11~12 小林一三エリア



P.13~14 インフォメーション



## 大阪成蹊大学 芸術学部情報デザイン学科 ビジュアルデザインコース

### 広報いけだ 裏表紙の編集及びデザイン

内容：池田市の「広報いけだ」裏表紙の編集及びデザイン

連携先：池田市市長公室広報広聴課

連携対応学年：芸術学部情報デザイン学科ビジュアルデザインコース2年

所管部署：大阪成蹊大学・大阪成蹊大学短期大学 教育研究支援センター

私たちは「地域文化を改めて見直し、学生視点で発信する」をコンセプトに掲げ、池田市の広報誌制作に関わることにした。編集のコンセプトは文化・芸術・地域振興で長年活動されている方々に視点を当て、市民の皆様へ広報誌を通じて紹介することが今回の活動目的である。

第一回(8月号)は、池田市で毎年行われている大阪三大火祭りで、1644年(正保元年)にその興りの起源を持つ「がんがら火祭り」をテーマとし、制作するにあたり、池田五月山大一文字ががんがら火保存会へ取材に伺った。取材内容として、材料に大変貴重である肥松という木を使っていることや、たいまつ(たいまつ)の制作方法を聞き、祭りで使用されている二種類の鐘や衣装等を見ることが出来た。取材をしていく中で、祭りを通して人との繋がりが生まれる事を知った。それらの情報を元に、従来の写真や市のキャラクターを使った裏表紙から、私たち学生が描いたイラストを使用することで、注目してもらい、様々な年代の方に読んでもらえるように工夫した。

地域文化に根ざした祭りのたくさんの魅力を、いかに解りやすく市民の皆様へ発信するか、広報誌制作の難しさを痛感した。第二回も、学生目線で、1962年「池田市青少年吹奏楽団」として結成された池田市吹奏楽団へ取材を行い、第一回で学んだ事を糧に、魅力を伝えて、池田市の広報に努めて行きたい。

参加学生：大谷明日美・他谷恵里奈

活動経過

平成26年7月6日	池田五月山大一文字 がんがら火保存会へ訪問、取材
平成26年7月14日	広報誌の裏表紙試作
平成26年7月18日	広報誌の裏表紙完成
平成26年10月1日	池田市吹奏楽団取材
平成26年10月2日	広報誌の裏表紙試作
平成26年10月8日	広報誌の裏表紙試作
平成26年10月15日	池田市に入稿



鐘を「がんがら」と打ち鳴らす



松明の内部に火薬を詰め込む



巨大たいまつ(たいまつ)の制作途中



貴重な木材(肥松)を使用している



広報「いけだ」8月号

### 池田市無料観光スポットガイドブック制作

大阪成蹊大学 芸術学部 情報デザイン学科 ビジュアルデザインコース 門脇ゼミ

3年 塩崎奈央 伊達由季乃 寺嶋知花

#### 依頼内容

大阪成蹊大学 芸術学部 情報デザイン学科 ビジュアルデザインコース

### 池田市の無料観光スポットを紹介するガイドブック

池田市の観光スポットをまとめた16Pのブック制作

- ・今までのガイドブックとは違う新しいもの
- ・学生の視点を入れる

ページの流れ P16  
表紙 裏 2P 地図

①「インスタントラーメン特別記念館」 1P-2P  
+ おすすめスポット  
駐車場

②「五月山エリア」 4P  
○五月山公園 +新緑 H26年4月オープン  
○五月山動物園 各コーナ詳しく、ワンパット  
+新緑 H26年4月オープン  
○五月山児童文化センター  
プラネタリウム  
●五月山緑地都市緑化センター  
○伊庭神社  
+ おすすめスポット

③「歴史建築集エリア」 4P  
●池田長福寺  
●幸運之神社 ビリケン  
○らくこみゅーじあむ  
●兵庫商店  
●吉田商店  
+ おすすめスポット

④「小林一三」 2P  
●池田文庫  
現在約20万冊をこえる図書・雑誌が収められています。  
収蔵図書の約60%は漫画・演劇・美術・文学に関するものです。  
●逸仙美術館（いつおうひじゅつかん）  
大阪府池田市築本町にある逸仙美術館。  
●小林一三記念館  
●池田城跡公園  
+ おすすめスポット  
⑤シャトルバスその他 情報 2P

#### 概要

大阪成蹊大学 芸術学部 情報デザイン学科 ビジュアルデザインコース

地域連携デザイン学習(課題解決型デザイン学習)

### 「池田市無料観光スポットガイドブック制作」 「広報いけだ 裏表紙の編集およびデザイン」

連携先:池田市民生活部

連携対応学年:芸術学部情報デザイン学科ビジュアルデザインコース2年15名(後期2単位 専門演習7)

所管部署:大阪成蹊大学・大阪成蹊大学短期大学 教育研究支援センター

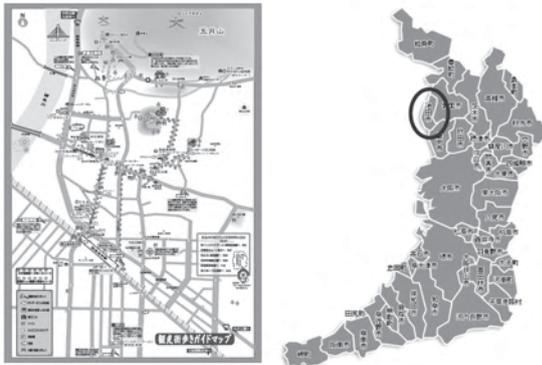
#### 年間活動計画

大阪成蹊大学 芸術学部 情報デザイン学科 ビジュアルデザインコース

時期	内容	2年生15人が3グループに分かれて取り組む
平成25年9月23日	授業オリエンテーション制作計画、グループ分け	
平成25年9月30日	プランニング 無料観光ガイドブック制作コンセプト及び今後の予定を設計	
平成25年10月7日	グループでの無料観光ガイドブック制作コンセプト発表	
平成25年10月14日	池田市観光拠点リサーチ	
平成25年10月21日	池田市長表敬訪問	
平成25年10月28日	無料観光ガイドブック試作	
平成25年11月4日	無料観光ガイドブック試作	
平成25年11月11日	誌面構成およびデザイン・プレゼンテーション準備	
平成25年11月18日	誌面構成およびデザイン 第1回目プレゼンテーション ※池田市職員審査員	池田市を訪れてから2週間で作成版をし、第一回目のプレゼン
平成25年11月25日	プレゼンテーション披露 池田市長表敬訪問	
平成25年12月2日	池田市観光拠点取材撮影	
平成25年12月7日	池田市観光拠点取材撮影	
平成25年12月9日	改善、問題点の修正	
平成26年1月6日	改善、問題点の修正	
平成26年1月13日	誌面構成およびデザイン・プレゼンテーション準備	
平成26年1月20日	最終選考会 ※池田市職員審査員	
平成26年1月27日	選考作品紙面デザイン修正及び校正	
平成26年2月3日	選考作品紙面デザイン修正及び校正	
平成26年3月	最終データ入稿	
平成26年4月21日	池田市長表敬訪問 完成報告	

#### 池田市について

大阪成蹊大学 芸術学部 情報デザイン学科 ビジュアルデザインコース



#### 取材

大阪成蹊大学 芸術学部 情報デザイン学科 ビジュアルデザインコース



#### point

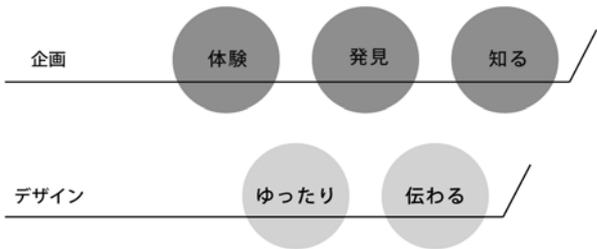
- ・職員さんの思いがより伝わった
- ・施設の特徴や特色がより伝わった



本学で池田市関係者を招いてのプレゼンテーション

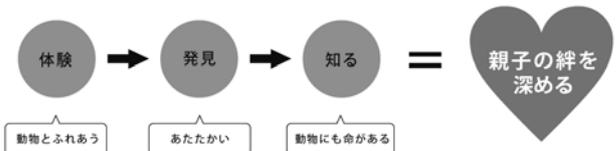
point

- ・デザイン面、企画面、相互での課題、問題点の確認が各チームごとできた
- ・本プレゼンまで今後必要な修正が明確になった



企画コンセプト

例：五月山動物園

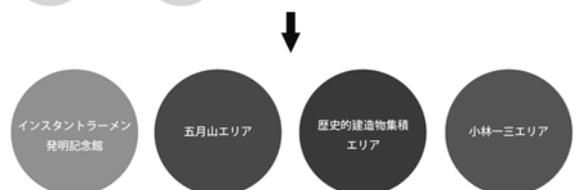


「体験」「発見」「知る」を通して親子の絆を深める。



デザインコンセプト

ゆったり + 伝わる = 大人も子供もわかりやすいデザイン



エリアカラーを設定することで観光の展開や目印に役立つ。

コンセプト 大阪成蹊大学 芸術学部 情報デザイン学科 ビジュアルデザインコース

ふくまるクイズ

Q チョキラーメンが舞ったのは何年ですか？

A.1956年 B.1959年  
C.1957年 D.1958年

親子の絆を深める

各場所を巡りながらクイズを解くことによって、池田市のいろいろなことを知ることができ、さらにクイズの答えを親子で一緒に考えることで親子の会話のきっかけを作る。

point

- ・学生の視点を盛り込む!!
- ・家族で楽しめる

池田市の広報誌（裏表紙）制作 大阪成蹊大学 芸術学部 情報デザイン学科 ビジュアルデザインコース

池田市の広報誌制作

ビジュアルデザインコース  
2年生 大谷・他谷



8月・11月・2月号裏表紙を担当

最終提出（入稿データ制作） 大阪成蹊大学 芸術学部 情報デザイン学科 ビジュアルデザインコース

表紙

P.1~2 インスタントラーメン発明記念館 P.3~4 五月山エリア P.5~6 五月山エリア

P.7~8 歴史的建造物集積エリア P.9~10 歴史的建造物集積エリア P.11~12 小林〜三エリア P.13~14 インフォメーション

point

- ・校正の難しさ、修正確認の繰り返し
- ・確認作業の大切さ
- ・時間と納期を守る

池田市の広報誌（裏表紙）制作 大阪成蹊大学 芸術学部 情報デザイン学科 ビジュアルデザインコース

キーワード

市民とのつながり

学生視点で発信

↓

物事をこのの始めから調べて、客観的に良さを理解できる

学が無い、逆に言うともあまり小難しい内容に仕立て上げられる

若いからこそ、若年にも興味を持ってもらえるような題材をチョイスできる

↓

コンセプト

地域文化を改めて見直し、学生視点で発信する

まとめ 大阪成蹊大学 芸術学部 情報デザイン学科 ビジュアルデザインコース

この課題解決型デザイン学習を通して学んだこと

課題内容の整理 池田市から私たちへの依頼内容の課題の整理

企画力 今までの観光パンフレットとの違いや、新しさ、デザイン性、視認性、

プレゼン力 自分たちの企画を伝える力

行動力 積極的な取材、施設の方々とのホウレンソウ、スピード感

まとめる力 グループメンバーをまとめる、情報をまとめ一冊のガイドブックにまとめあげる力

デザイン力 視認性を大事にしながらターゲットに合うデザイン、編集

池田市の広報誌（裏表紙）制作 大阪成蹊大学 芸術学部 情報デザイン学科 ビジュアルデザインコース

8月号特集テーマ

「がんがら火祭り」

1644年から続く大阪三大火祭り  
伝統と人の繋がり





## 11月号特集テーマ 「池田市吹奏楽団」

創立54年を誇る吹奏楽団  
様々な年代が在籍



### まとめ

市民と彼らの相互のつながり



地域が盛り上がる要因に？

### 行動指針

池田市の文化・芸術・地域振興で活動されている方々に視点をあてる。

市民の皆様に興味・関心を持って読んでいただけるような誌面づくり。

ご清聴ありがとうございました。



# スナップ写真集



# 地域連携 学生フォーラム in 大阪 2014

どなたでも参加できます!

参加無料  
事前申込制

定員 100名

10/18(土)13:00-18:00  
@大阪科学技術センター 401号室  
大阪市西区靱本町1丁目8-4

大学コンソーシアム大阪では、会員校の地域での課題解決に取り組む学生の研究活動(ゼミ)の発表交流会を開催します。  
学生の地域連携に取り組む意識の高揚と地域連携活動の情報を会員大学や自治体関係者等と共有・発信する機会とし、地域連携の活発化を目指します。



## ○学生発表内容○

<p><b>行政地域と連携した柏原市小学校における森林体験学習の支援</b> 大阪教育大学 教育学部 【担当教員: 岡崎 純子 准教授】</p>	<p>柏原市小学校での森林体験学習は、大学と行政(大阪府・柏原市)、柏原市教育委員会、小学校の連携により2002年から実施している活動である。この活動で学生は年2回の打ち合わせ会議にも参加し、実施補助だけではなく、リーダーとして活動を遂行する重要な役割も果たしている。</p>
<p><b>モダン科学館</b> 大阪教育大学 教育学部 【担当教員: 鈴木 康文 教授】</p>	<p>「理科、嫌い!」と言われてしまいがちな理科を楽しく学んでもらうため、手作り教材を用いて出張科学館や実験教室を実施している。身近にある物理的現象を扱い、改良を加えながら10年目を迎えている。</p>
<p><b>しょうがいを持つ子どもと家族の支援のための実践活動</b> 大阪河崎リハビリテーション大学 理学療法専攻 【担当教員: 久利 彩子 講師】</p>	<p>大阪河崎リハビリテーション大学では、学生が主体となって、しょうがいを持つ子どもと家族の支援のための実践活動を行っている。打ち合わせを含めた実践活動は、机上では得られない社会経験となっている。</p>
<p><b>認知症サポーター養成講座における本学学生と地域住民との受講意識の比較</b> 大阪河崎リハビリテーション大学 作業療法専攻 【担当教員: 石川 健二 講師】</p>	<p>地域包括ケアシステムの一環として、認知症サポーターの養成が全国で行われている。今回、受講された地域高齢者の意識調査を基に、本学学生からの調査結果を比較すると支援に対する意識の差がみられたので報告する。</p>
<p><b>健康推進を目的とした梅の摂取習慣が骨密度および運動機能におよぼす効果についての調査研究</b> 大阪河崎リハビリテーション大学 理学療法専攻 【担当教員: 中村 美砂 教授】</p>	<p>和歌山県田辺市内の各支所にお越しいただいた地域住民の方(主に中・高齢者)を対象に梅の摂取習慣を中心としたアンケート調査、ロコモティブシンドロームの指標となる足腰指数25の調査、身体測定を行った。</p>
<p><b>円山川の河川環境からみる里山の再生～海と街と山を繋ぐ取り組みを目指して～</b> 大阪商業大学 経済学部 【担当教員: 原田 禎夫 准教授】</p>	<p>コウノトリの野生復帰に取り組む兵庫県豊岡市において、ラムサール条約登録湿地のひとつでもある円山川下流域の楽々浦地区のみなさんとともに「オンライン・ごみマップ」を用いて漂着ゴミの実態を明らかにした。</p>
<p><b>福島県の青果物の売場企画</b> 大阪成蹊大学 マネジメント学部 マネジメント学科 食ビジネスコース 【担当教員: 田中 浩子 教授】</p>	<p>大阪府中央卸売市場、大果大阪青果株式会社、JA 全農福島、福島県大阪事務所、株式会社萌企画の協力を得て、スーパーマーケットにおける「福島県の青果物の売場」を企画し、学内発表会を経て、実際に販売を行った事例である。</p>
<p><b>地域連携デザイン学習「池田市観光スポット・ガイドブック制作」</b> 大阪成蹊大学 芸術学部 情報デザイン学科 ビジュアルデザインコース 【担当教員: 門脇 英純 教授】</p>	<p>「池田市観光スポット・ガイドブック制作」「広報いけだ 裏表紙の編集およびデザイン」において、学生視点で地域の情報を見直し、ターゲットの設定から読者ニーズを掘り起こし、デザインにより観光活性を促進する官学連携事例である。</p>

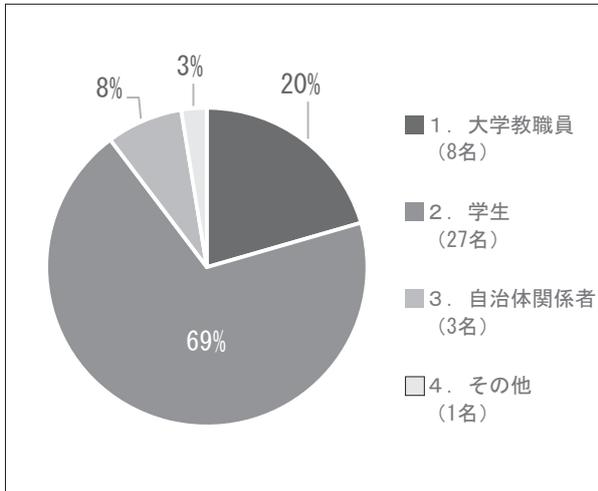
地域と共に学ぶ  
連携の道標

主催: 特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

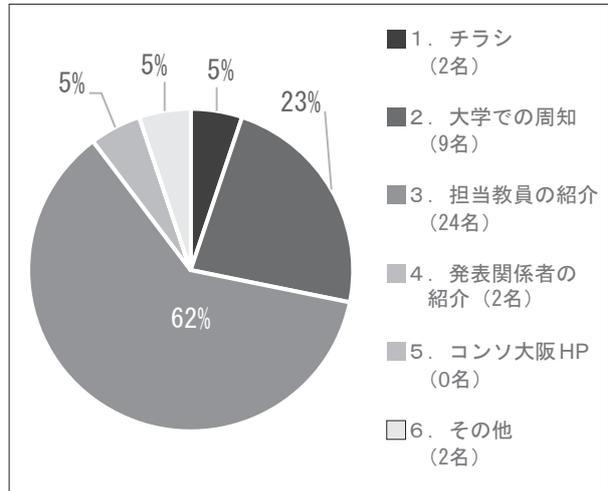
<http://www.consortium-osaka.gr.jp/>

# 地域連携 学生フォーラム in 大阪 2014 参加者アンケート集計結果 (39回答)

○所属先について



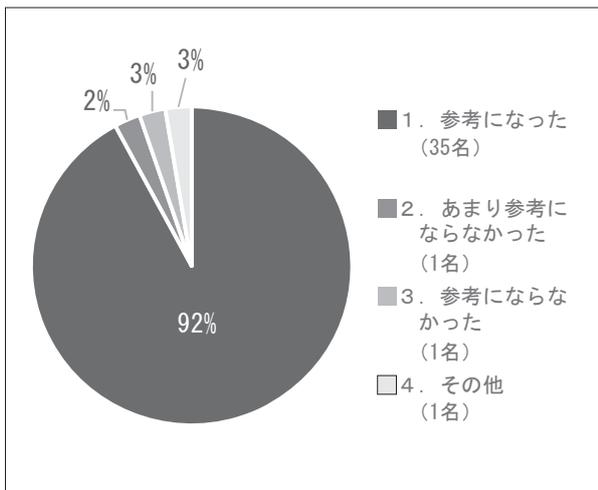
○このイベントを何で知ったか



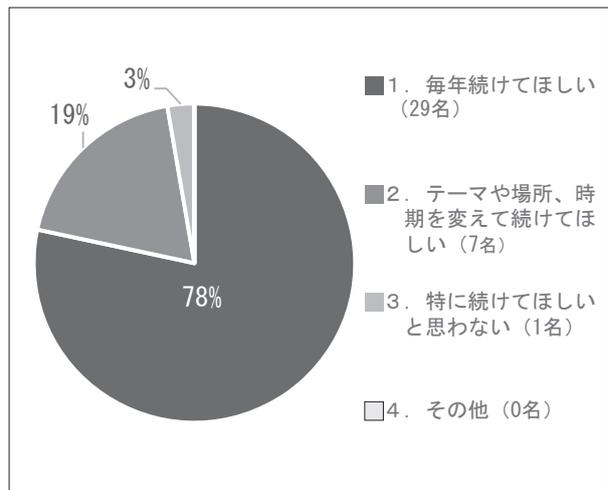
～その他～

- コンソーシアムからのお知らせにて
- 委員

○今後の研究や地域連携の取り組みの参考になったか



○イベントの継続について



～その他～

- 参考になるところもあったが、研究ジャンルが違うところもあり、正直微妙であった。

## ○このイベントの感想や意見

### ～大学教職員～

学生の良い発表の場となったことは、とても良かったです。ありがとうございました。もっと多くの大学に参加していただき、もっと積極的に地域連携を行っている大学の事例もお聞きしたいです。また、イベントの周知についてももっと広く知っていただき、発表者以外の参加者が増えるとさらに良いイベントになると思います。
様々な大学がその特性を活かした地域貢献を実行していることがわかりました。全ての学生さんが活々と発表されていて、教員がすべきことの確からしさを再確認できました。有難うありがとうございました。
他大学の取り組みや市との連携は今後も本学も進めたい。大学の専門性を生かすことは大きなメリット。
学生がグループ間で学生司会で発表してはどうでしょうか？ 学生が主体となって、学生が「参加してよかった」「他の大学に友達ができた」となるかもしれません。
学生主体のはずなのに学生に質問させるような雰囲気づくりがなされていない。
学生の司会進行等を行うなどして会全体を学生主体のものにしてはいかが？ 学生からの質問が全くなかったのは寂しかった。

### ～学生～

発表内容が自由すぎたので、1つテーマを決めてみると発表もしやすいかもしれないですね。
さまざまな活動や取り組みについて聞かせていただくことができ、とても勉強になりました。
他大学の取り組みについて知れてよかった。
PPTのコピーなど配布資料がほしかった。例：文字が見えにくかったり、スライドを更新するスピードが速い班では内容の理解が追いつかなかったため。
同世代の方が行っている活動などを知り、とても刺激になりました。 内容はそれぞれ違いましたが、自分たちにも参考になるようなことがありました。
アドバイスもいただき、自分たちの参考になりました。
自分の知らなかった事ばかりで、どの発表もとても興味のわく面白いものばかりでした。 今後の自分達のプレゼンや企画の参考にしていきたいと思いました。
私は学生も積極的に参加して、そしてたくさんの経験を積み、これからのいろいろな取り組みをする上でいい勉強になりました。
自分が学んでいる分野とは違った分野の発表は新鮮でおもしろく、またアイデアに驚くことがあったりと他分野への関心を強く持つ機会になった。
自分達の発表を行い、少しでも自分達が行っていることを知ってもらえた良い機会となった。また他校の発表内容を聞いて自分達が知らない地域の取り組みなどを知ることができた。今回の参加したことで学校では学べない研究内容を知ることができ、今後の生活にも役立てていきたいと思った。
他の学校の発表を見て自分が行う活動にもっと熱意をもたないとダメだと思った。
他大学のいろんな取り組みを知るきっかけとなった。私自身参加したいと思う活動がたくさんあった。
地域と連携していることは実際に体験していることなので、その場で終わらず、自分、地域の次につながるのだと思いました。

他大学の地域連携に関する活動を知ることができ、よい学びとなった。発表後の茶話会では他大学の学生さんと交流の場が設けられているので様々な話ができ、今後も続けて行ってほしいと思った。

他大学など多くの学校が発表しやすい場にする 것과他大学の意見も聞けたらと思った。

学生の発表を色々な方向から聞く事が出来る良いイベントだと感じました。

たくさんの学生の取り組みを見てとても刺激を受け勉強になりました。特に大阪教育大学の森林体験学習のノウハウを取り入れて自分達の活動に活かしたいと思いました。ありがとうございました。

初めて参加しましたが、発表や報告をする機会が少ない学生にとってはこのような場があることはありがたいなと思いました。

他校から自分達の考えとは違う所の発表や意見が聞け、おもしろかった。

“連携”と名の付いた講演会にはできる限り申し込んで出席したい！と考えているので、私の専門分野のまちづくりの参考にさせてもらうことができる。大学間での日程調整がまたクリアするのならまたしてほしい。本当にありがとうございました！

他の大学の活動等を知ることができたり、学生同士の交流ができて楽しかったです。また、人前で発表することが良い経験となりました。

#### ～自治体関係者～

地域連携の具体的な事例を知ることができて参考になりました。  
今後、私共自治体からの依頼が増えることと思います。よろしく申し上げます。

色々な地域連携を知ることができ、大変参考となりました。

#### ～その他～

大変いいことだと思います。参加させてもらい勉強になりました。これからも続けて行ってください。

## ○特に関心をもった内容（発表内容ごと）

### 行政地域と連携した柏原市小学校における森林体験学習の支援 (大阪教育大学)

- 教育プログラムとの連携
- 葉っぱの分類や、葉のあたたかみを感じるなど、実際に自分もやってみたいと思うような内容があったから。
- 地域の方々との関わり方を写真などがあり、とても分かりやすかった。
- 自然を大切にする。
- 教育実習の一環に出前授業
- 発表も素晴らしく、何をしているのかわかりやすかった。
- しっかりしたプログラムのもとで活動が行われている。
- 発表がいちばんうまかった。継続は力なりですね。
- 私たちも小学生に対して環境学習をするのでノウハウを学べて良かったです。
- 体験学習としても枠組みがとてもしっかりしており、素晴らしい内容であったから。
- 近年の小学校の授業で野外授業があるか興味があったから。またどのように森林体験学習を行っているかに興味がありました。
- 実際におこなわれているアクティビティが分かりやすかった。

### モダン科学館 (大阪教育大学)

- 教育プログラムとの連携
- 長く続いている取り組みで、今後もブラッシュアップしての取り組みを期待します。
- 手作りの教材でやっているというところがおもしろいと思いました。
- 来て学んでもらうという科学館のスタイルを越え、出張授業などで実験など説明をするという良い取り組みだと思いました。
- 子どもが科学に興味をもつ。
- 教材についての評価アンケートを行った点。10年間継続していること。
- 面白そう。小～高校生まで対応というのもすごい。これも継続は力。
- 来て頂いた人や学生自体も成長できるのでとても良い取り組みだと思います。
- 教育大学としての特色を生かしつつ、オリジナリティー・個性があったから。
- 1つのパッケージとしてできており、もっと最初はどんなところからはじめたのかを知りたくなった。
- 自分が小中学生の時に出張科学実験教室などはなく、行っている内容も日常でできる様な事で理科への興味が沸き、楽しく覚えられるのではないかと思った。
- 実際に授業を学生達で考え、それを実施するという事に驚きました。その中でどういう風に工夫しているかについての関心がありました。

しょうがいを持つ子どもと家族の支援のための実践活動  
(大阪河崎リハビリテーション大学)

- しょうがい児や保護者を支える。
- ボランティア生とそれを受ける保護者や障がい児の双方が良いものを得ていて良かった。
- 教育とも関連があるので。
- アロママッサージを使って、しょうがいを持つ人がいやされていることを初めて知った。
- 学生達が非常に積極的に参加している様子が印象的であった。
- 実際の子供の家族の声が聞けて効果が出ているところが良いと思います。
- 自分自身も同大学のボランティアサークルに参加していたので現在、どのように活動を行っているのかが気になりました。

認知症サポーター養成講座における本学学生と地域住民との受講意識の比較  
(大阪河崎リハビリテーション大学)

- 地域に対して自分達のあり方などを知ることができた。
- 認知症の人や家族を支える。
- アンケート調査の結果は非常に有益であると考えられる。
- 予防したいという思いの人達に対しての対策がとても良かったと思います。
- リハビリ等で認知症が大きく影響してくる中、どのようなアプローチを行っているかを知ることができました。

健康推進を目的とした梅の摂取習慣が骨密度および  
運動機能におよぼす効果についての調査研究  
(大阪河崎リハビリテーション大学)

- 地域間の連携の良さや活動内容に興味を持ったため。
- 一般の多くの方が関わっているところがすごいと思いました。
- 梅の力がすごい。協力がとても大きくて驚いた。
- きちんと調査されていて、とてもわかりやすく、健康に関する情報はだれにとっても重要なことなので、とても興味を持ちました。
- 梅ってこんなにすごいと思わなかったです。更に詳しく知りたいです。
- 身近なものに着目して研究しており、より、その地域に対して、より、学ぶことにより知ることができた。
- 梅の効果が伝わる。
- 梅干しと骨密度との関係を調べられていて大変興味深かった。
- 梅の効果を理解できた。
- 画像が多かったので関心を持ちやすかった。興味深い内容であった。
- 知らないことを知れて良かったです。

円山川の河川環境からみる里山の再生  
～海と街と山を繋ぐ取り組みを目指して～  
(大阪商業大学)

- まちづくりの展開
- 徐々に活動の幅を広めており、今後どうなるのか気になった。
- ゴミ問題からはじまり、地域に深く入り込んだの取り組みはとても良いと思います。
- とても聞き取りやすい声でした。話の段取りがキレイで理解しやすかった。
- 今地球上では環境問題が増えていますが、その中でも一番身近であるゴミの問題が一番の影響を与えている事、その対策について調べてあり、とても参考になりました。
- 衝撃です。大きな課題、ごみ問題、注目
- 資源の再生、自然環境、地域貢献、プレゼンの工夫、地域間連携
- 町がきれいになる。
- 限界集落の地域住民との距離の縮め方、地域をしっかりと知ることによって連携取組ができる。地域の活性化に貢献できても若い世層に魅力がない。
- 無意識下や自然ごみがあることに興味をもった。
- 写真が非常に鮮明だった。地域の人との交流のきっかけのための活動の話が興味深かった。
- 内容が理解しやすかった。発表が上手。
- とても良かったです。今後は楽しみです。
- 現在、ゴミに対しての問題をよく耳にするから

福島県の青果物の売場企画  
(大阪成蹊大学)

- おいしく売るだけでなく、福島県の青果物だからこそおいしい。
- 人に関心を持ってもらうための工夫について興味がわいた。
- 実際に市民が購入へ。
- 福島の野菜の実感がなかった。
- 企画過程がよく理解できた。
- 福島の再生に一役かっておられる点。
- 各自がコンセプトを持って取組んでいるのが良かったです。
- 被災地の特産品等をピックアップして工夫をして売るといった活動に興味がありました。午前中で完売したことがとても凄いなと思いました。

地域連携デザイン学習「池田市観光スポット・ガイドブック制作」  
(大阪成蹊大学)

- 地域との連携が本当の意味でできている。
- 実際に市民の目にふれる。
- 池田市の要請は何故あるのか？
- とりくみに対する意識の高さ、専門性の高さ
- 若者の視点によるマップ作りは身近に感じ興味をもつことができた。
- 工夫した点がよく理解できた。
- 行政と共に活動を続けておられる点。
- 試行錯誤されたスライドで見やすく内容がとても伝わりました。
- 今回、池田市について知ることができました。ガイドブックがとても分かりやすく楽しく見ることができました。工夫等にも色々な活動があり興味がありました。

特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

〒530-0001 大阪市北区梅田 1-2-2-400  
大阪駅前第2ビル 4階

TEL: 06-6344-9560 FAX: 06-6344-9561

MAIL: [info@consortium-osaka.gr.jp](mailto:info@consortium-osaka.gr.jp)

URL: <http://www.consortium-osaka.gr.jp/>